

2009年度 昭和会誌 診療部門



財団法人 昭和会 IMAKIIRE GENERAL HOSPITAL SHOWAKAI CLINIC

今給黎総合病院 昭和会クリニック

もくじ

- 3 内科（総合内科）
- 5 血液内科
- 6 糖尿病内科
- 8 消化器内科
- 10 循環器内科
- 11 呼吸器内科
- 15 神経内科
- 19 外科(消化器・乳腺・甲状腺・小児・肛門)
- 20 呼吸器外科
- 22 整形外科・リハビリテーション科
- 27 形成外科
- 30 脳神経外科
- 32 産婦人科
- 35 新生児内科
- 39 小児科
- 41 泌尿器科
- 42 眼科
- 43 気管食道・耳鼻いんこう科
- 44 皮膚科
- 46 麻酔科
- 47 放射線診断科・放射線治療科
- 49 救急科（連携診療科）
- 51 病理診断科
- 54 在宅診療科
- 56 歯科、歯科口腔外科

内科(総合内科)

総合内科部長 生野 博久

当院総合内科は以前斉藤先生が部長として勤務されていましたが、しばらく担当がおらず、平成16年より生野博久と二木真琴先生が担当し再開しました。

総合内科の業務は、外来では感染症、健康診断、ワクチン接種、午後の外来のバックアップ、入院では感染症、不明熱の診断治療などです。ワクチン接種は昨年度はインフルエンザを含めて921件行いました。

昨年はメキシコより感染が広がったブタ由来A型インフルエンザ(H1N1)の流行が日本にもおしよせ、当科へも多く患者さんが来院されました。当院は発熱外来を設けて患者様に受診していただきましたが、初めての事で戸惑いと集団発生する感染症への対応の困難さを痛感しました。この感染症により世界中で1万4千人以上(WHOの報告より)が亡くなっています。日本でも200人程度(厚生労働省報告より)が亡くなりました。早期の診断、タミフル、リレンザの投与は効果的であったと考えています。

一昨年の4月より特定健診が開始されました。これは最近話題の代謝症候群を診断し治療、指導するのを目的としています。脳出血、脳梗塞、心筋梗塞の原因となる動脈硬化には以前より高血圧、高脂血症、肥満、糖尿病などの危険因子があると言われていました。代謝症候群とは診断基準が問題になっていますが、腹部に内臓脂肪の蓄積がある場合は軽い危険因子の組み合わせにより動脈硬化が非常に進行するという概念です。自覚症状のある前に早期に動脈硬化の危険因子を発見し治療するためには、健康診断は重要と思われます。

当科は高齢者の患者様が特に多く、病気の治療は当然ですが、治癒した後の退院先でのfollow upが大変重要と思われます。専門性が利用できる場所は生かし、MSW(ケースワーカー)、在宅医療部との連携を保ち、より良いquality of lifeを目指した治療を考えて行きたいと思えます。

平成17年より開始したのはNST(nutrition support team)の活動です。これは患者様の栄養状態を把握して、栄養補給を補助する多種職種を含めた委員会活動です。主治医が希望する低栄養状態の患者様を栄養士、PT、ST、薬剤師、看護師と共に回診を行い、主治医への助言、補助を行っています。平成19年の5月からは入院時血清アルブミン値が低い患者様のスクリーニングも開始しました。本年は2月よりは入院患者様のカルテも電子カルテ化されましたので、スタッフと患者様の栄養状態の確認、検討を行い病棟への回診を行うように変更しました。当科としては「できることからコツコツと」をモットーに地道に診療、委員会活動を続けようと思えます。

【平成21年度 予防接種件数】

	インフルエンザ	新型インフルエンザ	おたふく	エイムゲン	ビームゲン	風しん	狂犬病	破傷風	水痘	麻しん・風しん	ニューモバックス	合計
4月	0	0	1	0	0	0	0	0	0	6	0	7
5月	0	0	1	1	0	0	0	1	1	7	0	11
6月	0	0	0	4	0	1	4	1	0	10	0	20
7月	0	0	1	3	0	1	2	0	0	10	0	17
8月	0	0	2	0	0	0	0	0	0	18	0	20
9月	0	0	2	0	0	0	0	0	0	1	0	3
10月	400	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	402
11月	214	0	0	1	1	0	0	1	0	1	0	218
12月	81	14	0	1	9	0	0	1	1	1	0	108
1月	7	64	2	0	1	0	0	0	0	3	0	77
2月	6	65	2	4	3	0	2	2	0	12	0	96
3月	1	6	0	2	2	0	2	2	0	17	1	33
総合計	709	149	11	16	16	2	10	8	2	88	1	1,012

血液内科

血液内科部長 小濱浩介

当院血液内科は平成22年4月現在、常勤医師1名と大学病院血液内科在籍の非常勤医師2名による診療体制をとっており、大学病院との連携のもと運営されています。白血病、悪性リンパ腫、成人T細胞白血病、多発性骨髄腫、骨髄異形成症候群などの血液の悪性疾患から、各種貧血、出血傾向をきたす疾患（紫斑病等）の診療を行っています。平成21年度に入院治療となった患者さんを図に示します。当院は血液学会認定研修施設となっており、地域最大級の総合病院として放射線治療をはじめとしたスムーズな他科連携を伴う集学的治療が可能であることが最大の特徴です。

外来は別表の通りで、通常外来は月曜から金曜までの午前中 11 時までですが、土曜日やそれ以外の時間については、随時外来までご相談ください。

【スタッフ】

小濱浩介(おばまこうすけ) 血液内科部長、医学博士

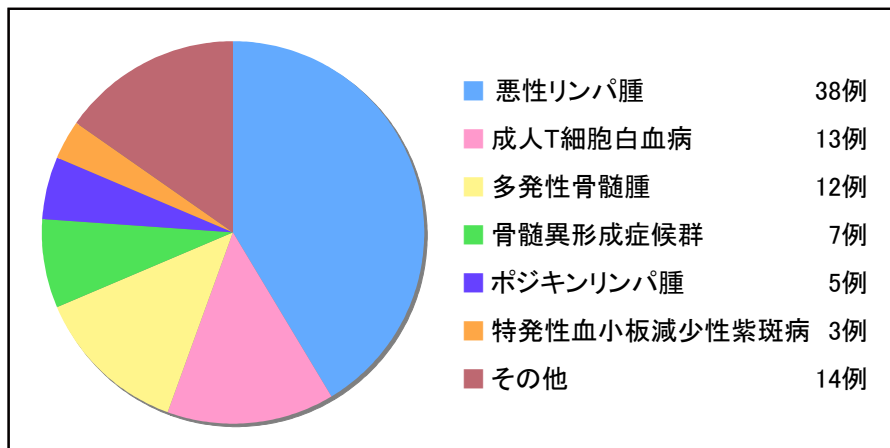
略歴 平成元年熊本大学医学部卒業、鹿児島大学病院、九州がんセンター
東京大学医科学研究所附属病院、鹿児島市立病院、今村病院分院などで血液内科医として勤務。

資格 血液学会専門医、同指導医、内科学会認定医、がん治療認定医、臨床腫瘍学会暫定指導医。
その他日本輸血学会、緩和ケア学会などに所属。

非常勤医師

魚住公治 鹿児島大学血液膠原病内科准教授

【平成 21 年度の新規入院患者 92 例の疾患別内訳】



【平成 21 年度中の学術活動】

【学会発表】

成人T細胞白血病リンパ腫の治療抵抗性腫瘍病変に対する放射線照射と2種類のTopoisomerase inhibitorの同時併用療法

第71回日本血液学会総会 京都市 平成21年10月

小濱浩介、鈴木紳介、魚住公治他

【論文】

Killer cell immunoglobulin-like receptor gene polymorphism in lymphoproliferative diseases of granular lymphocytes in Japanese population.

Kosuke Obama et al. Leukemia and Lymphoma in press

糖尿病内科

糖尿病内科部長 盛満 慎吾

【診療内容、特色】

鹿児島県内最大の民間の総合病院であることの人的および設備的なメリットを生かして、あらゆる病期の糖尿病患者さんにつきまして、血糖コントロールおよび慢性透析を除く全ての糖尿病に伴う合併症の管理が出来ます。ただ、担当医師数が常勤医1名、非常勤医1名と少ないために、管理出来る患者数に限りがあり、現在、外来ではその診療が限界に近付きつつあります。そのために、病状の落ち着いた患者さんにつきましては、掛かり付けの医療機関に紹介させて頂き、受け入れ可能患者数の確保に努めております。

【スタッフ紹介】

部長 盛満 慎吾

所属学会：日本内科学会，日本糖尿病学会，日本内分泌学会

資格：日本内科学会総合内科専門医，日本糖尿病学会専門医

医員（非常勤） 奥 寛子

所属学会：日本内科学会，日本糖尿病学会，日本神経学会

資格：日本内科学会認定医，日本神経内科専門医

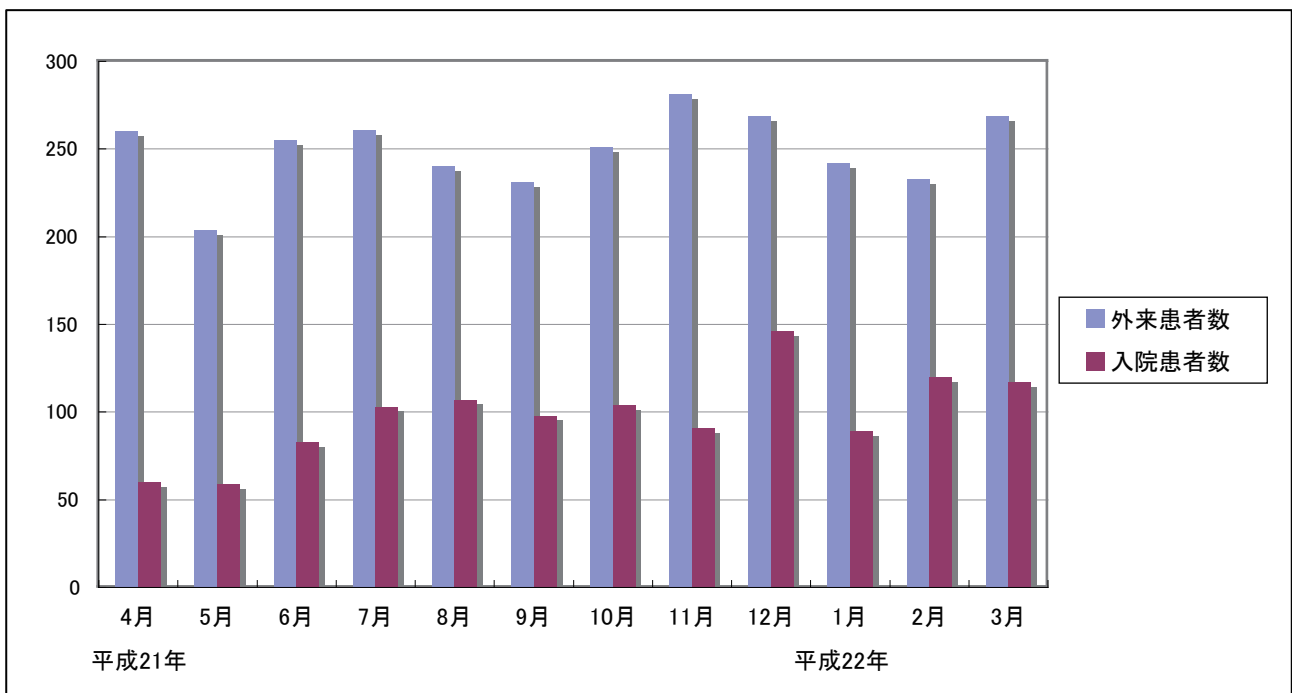
人事：本年度は特になし

【外来診察担当】

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	土曜日
AM	盛満*1	盛満	盛満	盛満	盛満*1	奥*2
PM	休診	休診	休診	休診	休診	

*1 予約再診のみ *2 隔週で予約再診のみ

【診療実績】



【平成 22 年度の計画】

昨年と同様の常勤医1名、隔週の非常勤医1名と少ない医師数での診療体制に対し、患者さんの増加、特に無治療や合併症をお持ちの重症な患者さんの増加は著しく、現在の当科の診療体制では質および量の面において限界に近づきつつあり、すでに患者さん方には十分な医療を提供出来なくなっております。そのために、それへの対応策として、以前より推し進めております開業医の先生方との地域連携パスを含めた病診連携をより一層進めることによる外来診療の効率化と、また、担当医の確保という人的資源の充実を図ってまいりたいと思います。今後とも開業医の先生方には、引き続き、色々ご協力をお願いすることもあるかとは思いますが、その際は、ご理解とご協力の程を頂きますように、この場をお借りしてお願いする次第です。その際は宜しくお願ひ申し上げます。

また、一昨年4月からのDPC（診断群分類包括評価）といわれる包括医療制度の当院への導入により、糖尿病性細小血管障害の評価については、入院下でも十分に行なえておりますが、以前は、入院下で行ってまいりました動脈硬化性疾患の評価や悪性腫瘍のチェックが、保険制度上、入院下では十分に行ない難くなってきております。そのために、動脈硬化性疾患の評価や悪性腫瘍のチェックが外来で行なえるようにシステムの構築をしてまいりたいと思います。

最後に、糖尿病患者さん方に対して、一病息災という理念の下に、QOLを維持しつつ健康な方々とかかわらない寿命を可能な限り保障出来るように、今後とも努力してまいりたいと思います。今後ともかわらぬご支援の程をお願い申し上げます。

消化器内科

消化器内科部長 古賀 哲也

消化器内科は、月曜日から金曜日まで内視鏡を含む超音波を使った検査、および治療が行われています。診療は、常勤医4名の他、4名の非常勤医で行っています。

検査は上部・下部消化管内視鏡検査、腹部超音波検査、上部・下部超音波内視鏡検査、超音波内視鏡下生検、内視鏡的逆行性膵胆管造影、IDUS、胃透視、注腸検査を行っております。

処置は、上部・下部消化管内視鏡的止血術、経肛門のイレウスチューブ留置術、イレウスチューブ留置術、内視鏡的異物除去術、内視鏡的食道拡張術、EIS・EVL、内視鏡的食道粘膜切除術、内視鏡的胃粘膜剥離術、内視鏡的大腸ポリープ切除術、食道ステント留置術、大腸ステント留置術、内視鏡的胆道ドレナージ術、内視鏡的乳頭切開および拡張術、内視鏡的胆道メタリックステント留置術、内視鏡的胃瘻増設術、PEG-J、経皮経肝胆道ドレナージ術、経皮経肝胆嚢ドレナージ術、経皮経肝胆嚢穿刺吸引術と多岐に渡っております。

当科の特徴は、内視鏡のほとんどすべての処置を満遍なく扱っていること、総合病院の特徴から他疾患やリスクの高い患者さんが多いこと、消化管全般の化学療法（入院・外来）を行っていること、緊急処置を要する患者様の緊急搬送が多いことです。外来は離島を含めた県内各地の病院から紹介を頂いています。

内視鏡室には3名の専属スタッフがおり、当科の高い安全性と成功率を維持する要となっております。

【診療状況】

外来患者 8,421名 初診 1,848名 再診 6,573名

入院患者 433名 / 年

【検査件数】

検査名	件数
上部消化管内視鏡検査	2131件 (経鼻内視鏡： 369件)
下部消化管内視鏡検査	942件
腹部超音波検査	1430件
上部超音波内視鏡検査(EUS)	52件
下部超音波内視鏡検査(CUS)	10件
超音波内視鏡下生検(FNA)	2件
内視鏡的逆行性膵胆管造影(ERCP)	111件
IDUS	6件
小腸内視鏡検査	6件
PTCS	2件
胃透視(MDL)	50件
注腸(BE)	60件

【処置件数】

処置名	件数
上部消化管内視鏡的止血術	66件
下部消化管内視鏡的止血術	5件
経肛門のイレウスチューブ留置術	22件
イレウスチューブ留置術(上部)	12件
内視鏡的異物除去術	13件
内視鏡的食道拡張術	5件
EIS・EVL	20件
内視鏡的食道粘膜切除術	0件
内視鏡的胃粘膜剥離術	6件
内視鏡的大腸ポリープ切除術	149件
内視鏡的大腸粘膜下層剥離術	0件
食道ステント留置術	6件
小腸ステント留置術	0件
大腸ステント留置術	1件
内視鏡的胆道ドレナージ術(ENBD・ERBD)	65件
内視鏡的乳頭切開および拡張術(EST・EPBD)	13件
内視鏡的胆道メタリックステント留置術	26件
内視鏡的胃瘻増設術(PEG)	21件
PEG-J	3件
経皮経肝胆道ドレナージ術(PTCD)	29件
経皮経肝胆嚢ドレナージ術(PTGBD)	2件
経皮経肝胆嚢穿刺吸引術(PTGBA)	9件

【講演・学会活動など】

【論文】

110年の経過中に形態の変化を見せた乳頭部腺腫の
1例

胆と膵 vol. 30(5)525-528, 2009
渡邊照彦、牟禮 洋、古賀哲也、白濱 浩

【症例報告】

胆管炎との鑑別に苦慮した高齢発症成人Still病の
1例

第45回日本胆道学会 千葉市 2009年9月19日
古賀哲也

透視併用経鼻内視鏡下“Direct法”PEGの有用性に
ついて

第88回日本消化器内視鏡学会九州支部例会
ホテル日航 熊本 2009年11月27日
古賀哲也、軸屋賢一、田村智章、大磯陽子、
立石清一郎、税所篤郎、松元 淳

当院におけるEUS-FNAの現状

第2回インターベンショナルEUS九州研究会
福岡 2010年3月13日
古賀哲也

【座長】

第13回鹿児島消化器癌研究会

城山観光ホテル 2009年4月24日
古賀哲也

【講演】

安全な内視鏡医療実現に向けての理論と実践
—今給黎総合病院消化器内科のこれまでの歩みを
総括して—

第9回鹿児島県消化器内視鏡技師会研修会 鹿
児島市黎明館 2009年7月11日
古賀哲也

安全なESDの実現に向けて その理論と実践

第10回鹿児島県消化器内視鏡技師会研修会
指宿市開聞町 2009年10月7日
古賀哲也

【講義、教育活動】

久木田学園看護専門学校講座派遣医師

古賀哲也：消化器の構造と機能、病態生理、
疾患の理解 講座時間 14時間

【平成22年度の計画】

今後3カ年計画で内視鏡の大幅な拡充と本年度内に
内視鏡ファイリングシステムの導入を予定してい
ます。

循環器内科

循環器内科部長 大場 一郎

【特色】

当科は鹿児島大学大学院医師学総合研究所循環器・呼吸器・代謝内科学教室（鄭忠和教授）から循環器内科スタッフとして派遣された三名の常勤医で構成されています。循環器疾患の外来・入院診療、他科から依頼の術前および心疾患精査、救急患者の対応を経胸壁・経食道心エコー、頸動脈エコー、下肢血管エコーなど超音波検査、運動・薬物負荷検査、冠動脈造影 MDCT を駆使し生理検査室、放射線科と連携のもと多様に診療をこなしています。

【人事・スタッフ】

平成21年度の循環器内科の診療実績について御紹介申し上げます。人事異動は平成21年9月31日楠本敦旨医師の退職後、平成21年10月1日から向井尊医師が、平成22年3月31日溝口悦子医師の退職後、平成22年4月1日から下舞浩二医師が派遣されました。その他に院内ローテーションや研修医を加えて日々の診療を行っています。生理検査技師の富吉裕児、森田修康と外来受付・看護部体制で検査・治療に対応しています。

【診療状況】

1) 外来診療

外来診察は部長が金曜以外の毎日午前中と水曜の午後、他のスタッフが隔日で午前中の診察にあたります。外来患者数は一日あたり30-50名程度で、待ち時間の解消のための予約制をとっていますが、予約外の飛び込み受診、新患や急患、他院や他科からの紹介患者様を組み込まざるをえず、限られたマンパワーの中ではなかなか予約通りにはいかないのが実情です。高血圧、高脂血症、糖尿病などの生活習慣病、狭心症・心筋梗塞など虚血性心疾患、陳旧性心筋梗塞後や拡張型心筋症など心筋疾患による慢性心不全、心房細動、上室性頻拍などの不整脈および弁膜疾患、下肢閉塞性動脈硬化症（ASO）や深部静脈血栓症（DVT）など下肢血管疾患や大動脈解離などの救急対応と循環器疾患全般の診療を行っています。当科の特徴としては術前心機能評価目的での他科依頼の多さです。冠動脈造影MDCT診断が放射線部のレベルアップによる解析の迅速化で従来より大量かつ詳細な画像診断が可能になりました。当院では心臓カテーテル検査およびカテーテル治療は行いませんので、鹿児島大学病院・鹿児島医療センター・鹿児島市立病院・天陽会中央病院といった心臓カテーテル関連施設との緊密な連携によりスピーディな

診断・加療を実現しています。また、上記の鹿児島市における循環器基幹病院と合同でカンファレンスや研究発表を行う機会も多く、先進医療の動向にも充分対応出来ます。

2) 入院診療

最も多い症例は高齢者の慢性心不全の増悪により救急搬送されるケースです。ICU管理で循環・呼吸状態を改善させ内科病棟へ転棟し全身状態の改善をみて退院となります。ペースメーカー植え込み術はほぼ毎月一件のペースで行っています。整形外科など長期臥床化する症例が多いことから下肢静脈血栓症例は増加がみられ、放射線科と留置型の下大静脈フィルターによる肺塞栓予防を積極的に行っています。

【平成 22 年度に向けて】

現在の診療内容をさらに充実させながら、大学病院や鹿児島医療センターといった最新機器や情報の豊富な施設との人的・物的交流をいっそう深めていきます。総合病院である当院の特色から循環器科に限らず幅広い疾患を経験する機会が多く、研修医の対応にも力を入れていく予定です。

【手術症例数】（平成 21 年度）

ペースメーカー移植術

- 1) 新規 : 4 件
- 2) 入れ替え : 2 件

【超音波検査件数】（平成 21 年度）

- ・心エコー : 約 2,800 件、
- ・頸動脈エコー
経胸壁心エコー時にルーティンに行っています。
- ・下肢血管エコー 約 280 件

【冠動脈 MDCT】

約 300 件

呼吸器内科

呼吸器内科部長 岩 川 純

平成21年10月から、当科は岩川以下 久保田、窪田、俣木医師の4人体制となりました。呼吸器外科、放射線科、病理科とも協力しより良い呼吸器疾患の診療にあたってまいります。また、他科とも連携して患者さまに対して全人的に診療に当たるように努めてまいります。当科は平成20年度から日本呼吸器病学会の関連施設となりました。より充実した診療を目指し努力してまいります。

【当科の主な診療内容】

肺炎、呼吸器感染症

日本呼吸器学会や感染症学会の市中肺炎ガイドライン、院内肺炎ガイドラインに準拠して診断、治療にあっています。結核については当院には結核病床がないため、外来での診療が主となります。肺炎球菌ワクチン接種も行っています。

肺癌

胸部レントゲン、CTなどの画像診断、気管支鏡をおこない、肺がんの診断を行います。放射線科、外科、病理診断科と連携して患者様ごとの最も適切な治療について検討し、治療について提案いたします。

内科領域では抗がん剤による治療が中心となります。痛みをとる緩和治療も行っています。

外来での抗がん剤治療も積極的に行っています。担当医にご相談ください

気管支喘息

鹿児島県は2003年の統計で人口10万人あたりの喘息死全国平均2.9人に対して6.6人で全国最下位を記録しています。気管支喘息は、吸入ステロイドを中心とした治療でコントロール可能な患者さんが増えています。当科ではぜんそく死ゼロを目指して鹿児島気管支喘息研究会の協力病院（拠点病院）として活動しています。

間質性肺炎

治療、診断が困難な疾患でしたが徐々に病態が解明されつつあります。治療についても進歩しています

肺気腫、慢性呼吸不全

肺機能、画像所見からの的確な診断を行い、状態にあった治療を選択するように努めています。呼吸リハビリテーションや薬物治療、禁煙指導を行います。状態によっては在宅酸素療法の導入や非侵襲的陽圧換気療法（鼻マスク式人工呼吸器）も使用しています。

当科では、学会、研究会に積極的に参加して最新の医療学び、院内、当科でのカンファレンスで患者さまごとの最良の医療を提供できるように努力しております。

【外来診療】

月曜日から金曜日は外来担当を決めて診療しております。土曜日については担当医師が週で変わりますのでご注意ください

平成17年度からの外来患者延べ数と新患者数を表1に示します。平成18年度以降外来患者数では6000人前後で新患者数も1000人前後です。

表1)

	延べ患者数	新患者数	紹介患者数
平成17年	5,434	1,202	341
平成18年	6,527	1,347	410
平成19年	6,678	1,302	462
平成20年	6,979	1,152	493
平成21年	7,498	986	437

平成21年度の定期外来受診した患者さまの疾患では、気管支喘息が最多で410例、ついで肺炎が約300例でした。また肺がんは68例で、間質性肺炎が30例、肺気腫は90例でした（重複を含む）。

【禁煙外来】

平成21年4月から当科でも保険が適応できる禁煙外来を始めました。水、金の午前中のみ外来となります。他院での治療困難なかに限定させていただいております。ご希望の方はかかりつけ医の先生にご相談のうえ、紹介をいただくようお願いしております。

【入院診療】

入院診療としては平成18年から3階西病棟を主病棟として診療に当たることとしました。各病棟に患者さまが点在すると非効率のみでなく、看護師との連携も困難でよりきめ細やかな診療ができないと考えました。また、看護師をはじめスタッフの教育の点でも不利と判断したためです。軽症患者さまであれば他病棟に入院することはありますが呼吸不全を有する患者さまなどは3階西病棟に入院していただくようにしています。さらに人工呼吸器が必要となる急性疾患などは状態によってはICUでの治療するようにしています。入院患者数の内訳を表2に示します。

表2)

	17年度	18年度	19年度	20年度	21年度
肺癌	267	243	358	338	335
肺炎	110	110	121	133	114
びまん性肺疾患	22	21	18	31	49
喘息	13	28	24	26	14
肺気腫	7	5	11	14	12
肺結核	13	4	5	16	13
その他	161	154	144	198	157
合計	593	565	681	756	694

平成21年度疾患ごとでは肺がんのために入院した延べ患者数が335例と最多となっています。平成18年8月から平成19年7月までの1年間、当科で新規に肺がんと診断された患者数は116例うち呼吸器外科で手術可能な患者様は1/3程度でした。手術ができないⅢb期以上の患者が多いのが実情です。治療としては進行肺がんが高齢、全身状態が不良のため抗がん剤による化学療法ができなかった数例を除き、化学療法を施行しています。化学療法は複数回の治療となるため1人の患者さまが2-6回入院するため延べ患者数では最多となっています。肺がんについては患者さまには病名を告知し、標準的に肺がんが使われている化学療法を選択し、効果も説明して納得して治療を受けていただくようにしております。また入院だけでなく外来での化学療法を積極的に行い、患者さまの負担を軽減するように努めています。

他の疾患としては肺炎、気管支喘息、肺気腫についても学会などの推奨するガイドラインに基づき経験だけに頼らない、根拠のある治療を目指しています。

平成21年度の気管支鏡検査の数としては呼吸器内科158例で大きな合併症はありませんでした。気管支鏡を行い肺がん疑いで行った気管支鏡検査おこなった77例中45例59%で組織または細胞診で診断が確定しています。重篤な合併症はありませんでした。診断率が前年72%から低下しており、診断確率を上げるべく今後も適応を考慮し、安全に的確な検査を施行していきます。

最後に、当科が円滑に診療を行えるのも3階西病棟の科長をはじめ病棟スタッフ、外来スタッフや多くのメディカルの方々のお陰です。また、

大きな合併症もなく気管支鏡を施行できているのも、気管支鏡室専従の中川さん、内視鏡室の西山さんのご協力の結果です。紙面ではありますがお世話になっている方々に厚く御礼申し上げます。

【スタッフ】

略歴

岩川 純

1995年 鹿児島大学卒業
鹿児島大学医学第3内科入局 研修医
1996年 沖縄中部病院呼吸器内科レジデント
1997年 県立北薩病院 呼吸内科医師
1999年 長崎大学 第二内科
感染症グループに国内留学
2001年 ネブラスカ州立大学 留学
2003年 出水市立病院呼吸器内科医長
2005年 鹿児島大学病院 呼吸器内科医員
2006年 今給黎総合病院呼吸器内科 部長 現職

<所属学会>

日本内科学会 日本呼吸器学会
日本感染症学会 日本化学療法学会
日本臨床腫瘍学会 日本肺癌学会
日本アレルギー学会

<取得資格>

医学博士 07年3月 学位取得(鹿児島大学)
年鹿児島大学学位授与
日本内科学会認定医
日本内科学会総合内科専門医
日本呼吸器学会 専門医
日本がん治療認定医
ICD

<受賞>

2001 University Nebraska Outstanding PHD Award

2002 AMERICAN THORACIC SOCIETY Young Investigator Award
2003 鹿児島大学第3内科 海外留学奨励賞
2004 鹿児島大学第3内科 症例報告賞
2006 鹿児島大学第3内科 症例報告賞

久保田 真悟

1998年 鹿児島大学医学部卒業 第3内科入局
2001年 今村分院
2003年 阿久根市民病院
2005年 鹿児島大学病院 呼吸器内科
2006年 今給黎総合病院呼吸器内科

<所属学会>

日本内科学会
日本呼吸器学会

<資格修得>

日本内科学会認定医

窪田 幸司

2002年 鹿児島大学医学部卒業
鹿児島大学病院第3内科入局
2004年 肝属郡医師会立病院呼吸器内科
2005年 南九州病院呼吸器内科
2007年 鹿児島大学病院
呼吸器ストレスケアセンター
2009年 今給黎総合病院呼吸器内科

<所属学会>

日本内科学会
日本呼吸器学会
日本アレルギー学会
日本呼吸器内視鏡学会

<取得資格>

日本内科学会認定内科医

俣木 浩子

2005年3月 鹿児島大学医学部卒業
2005年4月 鹿児島大学病院初期研修医
2007年4月 鹿児島大学病院後期研修医
(呼吸器・ストレスケアセンター)
2007年12月 鹿児島医療センター
2008年4月 鹿児島市立病院内科
2009年4月 国立病院機構 南九州病院
呼吸器内科
2009年10月 今給黎総合病院呼吸器内科 現職

<所属学会>

日本内科学会
日本呼吸器学会

<取得資格>

日本内科学会認定医

【学会活動業績】

【論文】

父娘感染が示唆された RFP、SM 耐性肺結核の一例
鹿児島医報
岩川 純, 隈元朋宏, 本川郁代, 久保田真吾

【講演会】

感染症

PK/PD を考慮した市中肺炎の治療
谷山生協病院 2007年9月26日
岩川 純

PK/PD を考慮した市中肺炎の治療
串木野医師会 2008年11月18日
岩川 純

ガイドラインを踏まえた市中肺炎の診療の実際
クラビット発売記念特別講演 2009年8月7日
岩川 純

PK/PD を考慮した抗菌薬の適正使用
鹿児島市薬剤師会 2009年7月7日
岩川 純

今給黎総合病院感染防御委員会の取り組み多剤耐性緑膿菌について
ゾシン発売記念講演会 2010年3月18日
岩川 純

気管支喘息 COPD

成人喘息のガイドラインと吸入ステロイド薬の位置づけ
第119回 鹿児島市薬剤師会 西区勉強会
2008年7月16日
岩川 純

病態に基づいた最適な喘息治療とは?
鹿児島気管支喘息研究会 ミニレクチャー
2009年4月14日
岩川 純

気管支喘息の診断と治療のポイント
鹿児島市東地区薬剤師会 2010年2月23日
岩川 純

気管支喘息の診断と治療のポイント
出水郡医師会内科医会 2010年3月2日
岩川 純

気管支喘息の診断と治療のポイント
大隅地区4医師会 2010年4月22日
岩川 純

【学会発表】

芳香剤誤嚥による呼吸不全を起こし救命し得なかった1例
第59回日本呼吸器学会九州地方会 別府市
2007年11月22日
今給黎総合病院呼吸器科
○隈元 朋洋 本川 郁代 久保田 真吾 岩川 純
鹿児島大学病院呼吸器ストレスケアセンター
松山 航 東元 一晃 有村 公良

リネゾリドが有効であった MRSA による中心静脈カ

テーテル関連敗血症の1例

第279回日本内科学会九州地方会 長崎市

2007年11月18日

今給黎総合病院呼吸器科

○隈元 朋洋 本川 郁代 久保田 真吾 岩川 純

鹿児島大学病院呼吸器ストレスケアセンター

松山 航 東元 一晃 有村 公良

Voriconazoleにより画像所見が改善したアレルギー性気管支肺アスペルギルス症の一例

第61回日本呼吸器学会九州地方会 宜野湾市

2008年11月6日

今給黎総合病院 呼吸器内科

○内田 章文 ○岩川 純 上川路 和人

野間 聖 久保田 真吾

鹿児島市立病院 内科

末次 隆行 町田 健太郎

明らかな免疫異常がなく発症した肺ノカルジア症の1例

第63回日本呼吸器学会九州地方会 北九州市

2009年11月26日

○上川路 和人 岩川 純 内田 章文

野間 聖 久保田 真吾

【研究会発表】

吸気流入速測定による吸入ステロイド薬剤形の検討

第6回鹿児島喘息研究会

○久保田 真吾 岩川 純

鹿児島大学病院 呼吸器内科 東元一晃

ゲフィチニブが著効した喫煙者肺線がんの1例

鹿児島肺がん研究会

○岩川 純 隈元朋宏 本川郁代 久保田真吾

肺アスペルギルス症に対する新規抗真菌薬の使用経験

○岩川 純 久保田真吾 野間 聖 内田章文

神経内科

神経内科部長 丸山 芳一

【特徴】

夢の薬リコンビナント組織型プラスミノゲンアクチベーター（rtPA）が脳梗塞急性期医療を大きく変えるのではないかという期待で2009年度も始まった。しかし、われわれが期待したほどの効果は得られていない。適応となる患者さんが少ないからである。本年度は2例の患者さんにrtPAを投与し、1例は著効、1例は無効であった。

一方、例年の入院患者数350人がいきなり402人に増えた。特に神経免疫性疾患（ギラン・バレー症候群、慢性炎症性脱髄性多発神経炎、多発性硬化症）といった神経内科らしい神経疾患が増えた。脳梗塞は「後の祭り」の感があるが、これら免疫性疾患は初期対応が重要である。診断の遅れは治療の遅れ、診断のズレは治療選択のズレをきたす。

神経内科医は3名であるが前歴はみな部長経験者である。連立を組む在宅診療科 林茂昭先生と甲斐太先生も前任地では部長である。つまり、入院すればもれなく経験豊富な部長が必ず主治医になる。10年後が心配であるが。

対外的には丸山は各種研究会の世話人、鹿児島大学臨床教授として大学講義、実習生の対応、臨床研修医対応、長堂は鹿児島大学の非常勤講師として大学講義、大学病院専門外来、ポリクリ学生指導、看護学校の授業（看護師さんの獲得のため）などを行っている。

今年度の神経内科の記念碑的出来事は院内卓球大会で優勝したことである（鬼コーチの荒田以下、昇院長、長堂、福田、腰痛の丸山）。

病棟は別館2階南病棟42床、神経内科と皮膚科の混合病棟である。上ノ町師長以下30名の精鋭部隊である。外来は有能で気配りのできる平川さん、郡山さんのおかげで回転している。大学からは専門外来に応援をいただいている。

神経内科は神経疾患を対象とするのであって、高齢だから、基礎疾患がパーキンソン病だから、意識障害があるから、脳梗塞の後遺症があるから云々は診療対象にはしないというのが一般的である。したがって神経内科は少人数、少ベッド、少収益が当たり前である。しかし、私たちは呼吸器内科の次に大きな診療科になっている。複合的に病める患者さんはどこかが診ないといけない。

「神経内科」である前に私たちは「内科」であることを意識している。

【スタッフ】

丸山芳一 部長

医学博士、日本神経内科学会専門医、日本内科学会認定医、日本神経学会評議員、鹿児島大学臨床教授 愛媛大学医学部卒

長堂竜維 部長

医学博士、日本神経内科学会専門医、日本内科学会認定医、鹿児島大学医学部非常勤講師 鹿児島大学医学部卒

荒田 仁 医師

医学博士、日本神経内科学会専門医、日本内科学会認定医、鹿児島大学医学部卒

大磯陽子 医師

内科学会認定医 平成21年4月～10月研修

福田宏正 研修医

平成21年4月～6月研修

非常勤医師

有村由美子医師（電気生理学検査）

丸山征郎医師（血管病）

有村公良医師（頭痛外来）

橋口照人医師（神経内科、糖尿病）

脇田政之医師（頸部血管超音波検査）

池田賢一医師（神経内科）

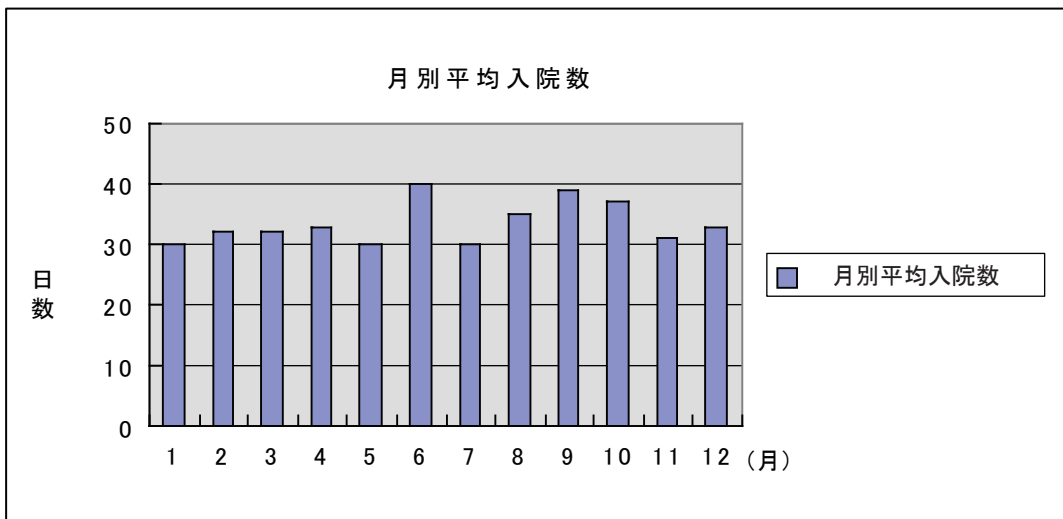
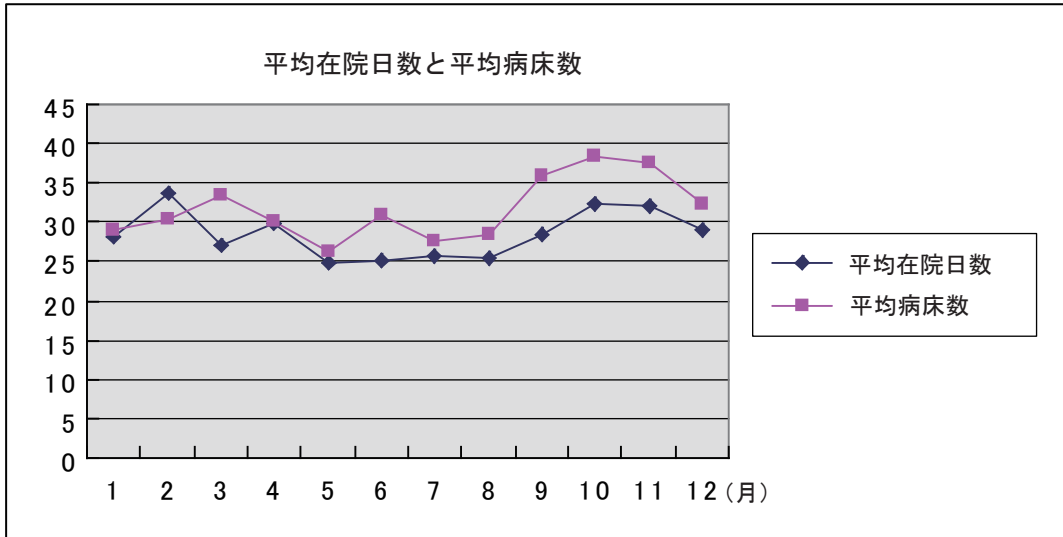
徳永章子医師（神経内科）

【診療状況】

【外来患者】

初診 (人)	再診 (人)	1日平均			新患率 (%)
		合計(人)	初診 (人)	再診 (人)	
1,486	10,421	31.4	3.6	27.8	11.3

【入院患者】



入院総数 402名 退院総数 413名
 平均在院日数 28.3日 平均病床数 31.7床

【入院患者内訳】（平成21年4月～平成22年3月）

脳血管障害	脳梗塞	108
	一過性脳虚血発作	7
	脳出血	19
	脊髄くも膜下血腫	1
	外傷性くも膜下出血	1
	脊髄脳膜外血腫	1
	脊髄出血	1
	椎骨動脈解離	1
	椎骨脳底動脈循環不全	2
	球麻痺	1
	一過性全健忘	1
	横静脈洞血栓症	1
変性疾患	SHY-DRAGER症候群	1
	アルツハイマー病	1
	進行性核上性まひ	1
	パーキンソン病	21
	小脳失調症	1
	多系統萎縮症	1
	脊髄小脳変性症	4
	前頭側頭萎縮症	1
感染症	尿路感染症	2
	ウイルス感染症	1
	エイズ	3
	クロイツフェルトヤコブ病	1
	髄膜炎	7
	脳炎	5
	つつが虫病	1
	不明熱	4
	ヘルペス感染	1
	ヘルペス脳炎	1
	副鼻腔炎	1
	破傷風	1
	蜂か織炎	2
肺炎/気管支炎	18	
代謝性疾患	ウエルニッケ脳症	1
	慢性アルコール中毒	1
	DM/神経合併症	5
	低ナトリウム血	1
	低血糖	1
	睡眠時無呼吸	1
機能性疾患	うつ病	1
	てんかん	15
	失神発作	2
	逆行性健忘	2
	ヒステリー	3
	偏頭痛/群発頭痛	2
	めまい	12
	メイジ症候群	1

脊髄／脊椎疾患	頸髄症	2
	瘻性脊髄症	1
	脊髄炎	2
	脊髄障害	1
	亜急性連合性脊髄炎	1
	腰痛症	2
免疫／アレルギー性疾患	Sweet病	1
	RS3PE	1
	急性散在性脳脊髄炎	2
	ギランバレー症候群	8
	ANCA関連血管炎	2
	関節リウマチ/関節炎	2
	抗リン脂質抗体症候群	1
	重症筋無力症	5
	全身性エリテマトーデス	2
	多発性硬化症	11
	Wegener	1
	慢性炎症性脱髄性多発神経炎	1
	リウマチ性筋痛症	6
多巣性運動神経炎	2	
腫瘍性疾患	悪性リンパ腫	1
	癌性髄膜播腫	1
	転移性骨腫瘍	1
	髄膜腫	1
末梢神経／筋疾患	顔面神経麻痺	2
	筋炎	2
	純粹感覚神経麻痺	1
	多発神経炎	2
	多発脳神経炎	1
	低Kミオパチー	3
	好酸球性筋膜炎	1
	特発性顔面神経麻痺	2
	悪性症候群	1
	橈骨神経麻痺	1
	手根管症候群	1
	ラムゼーハント症候群	2
	筋萎縮性側索硬化症	16
周期性四肢麻痺	2	
その他	老人性眼けん下垂	1
	正常圧水頭症	5
	反回神経麻痺	1
	イレウス	1
	急性胃潰瘍	1
	胃瘻交換	2
	肝硬変	1
	急性腎不全	1
	高血圧	1
	急性心筋梗塞	1

その他	褥創	1
	低髄圧症候群	1
	血小板減少症	1
	結節性紅斑	1
	肥厚性硬膜炎	1
	便秘	1
	脱水	4
	心室細動	1
	慢性心不全	1
	トローザハント症候群	2
	喘息重積発作	1
	副腎不全	1
	播種性血管内凝固症候群	1
	頭部挫創	1
	閉塞性動脈硬化症	1
急性腸炎	1	

総計 402名

【死亡症例】（9名）

89歳	女性	心源性脳塞栓
63歳	女性	心源性脳塞栓
79歳	女性	心源性脳塞栓
67歳	男性	重症筋無力症
78歳	男性	筋萎縮性側索硬化症
61歳	女性	心源性脳塞栓
56歳	女性	アテローム血栓性脳梗塞
86歳	女性	播種性血管内症候群
61歳	男性	心源性脳塞栓

【特殊検査】

電気生理検査

感覚誘発電位測定	91件
誘発筋電図	155件
針筋電図	117件
脳波	120件（含む脳外科, 小児科）

脳血流検査（SPECT） 入院1件 外来8件

MIBG心筋シチ 入院11件 外来20件

【対外活動】

特徴的な眼症状を欠き、呼吸困難で発症した重症筋無力症の1例

日本内科学会九州地方会 アクロス福岡
福岡市 2009年11月1日
福田宏正、甲斐 太、荒田 仁、林 茂昭、
長堂竜維、丸山芳一

外傷性椎骨動脈解離で発症したと考えられたIACA症候群の一例

Brain Attackフォーラム 城山観光ホテル
鹿児島市 2009年10月24日
甲斐 太、荒田 仁、林 茂昭、長堂竜維、
丸山芳一

【講演】

パーキンソン病と認知症

鹿児島市 城山観光ホテル 2009年8月4日
丸山芳一

ワーファリンの功罪

鹿児島市 レクストンイン鹿児島 2009年8月21日
丸山芳一

パーキンソン病の診断のポイント

鹿児島県市町村自治会館 2009年11月18日
丸山芳一

新しい抗血小板剤

鹿児島市 城山観光ホテル 2010年2月9日
丸山芳一

座長

脳卒中を考える会

鹿児島市 城山観光ホテル 2009年4月9日
丸山芳一

エイズ研究会

鹿児島市 ホテルタイセイ 2009年11月7日
丸山芳一

インタビュー

Fighting vascular events in Fukuoka 2009

福岡市 グランドハイアット福岡 2009年7月2日
丸山芳一

【研究・教育】

脳血管疾患の再発に対する高脂血症薬HMGCoA阻害薬の予防に関する研究

丸山芳一（研究協力）
主任研究者 松元昌泰 広島大学脳神経内科

外科 (消化器・乳腺・甲状腺・小児・肛門)

外科部長 牟禮 洋

【人事】

勤務者

<医師>

継続：今給黎和典，牟禮 洋，野間秀歳，

(転出)

島田麻理緒：平成 21 年 6 月まで

瀧川譲二：平成 21 年 6 月まで

(転入)

宮園 太志：平成 21 年 7 月から

野口 智弘：平成 21 年 7 月から

<診療アシスタント>

手塚 あゆみ

<看護師>

松田 めぐみ

大野 ひとみ

田久見 麻美子：平成 21 年まで

他

【学会発表】

薬剤性腎障害を併発した胃癌術後再発に対して
CPT-11単独投与が有効であった1例

第47回日本癌治療学会学術集会，横浜市，
2009年10月23日

宮園太志、辺木文平、萩原貴彦、立野太郎、
喜多芳昭、才原哲史、夏越祥次

膵頭十二指腸切除術後管理におけるドレーン方式
による術後合併症の比較

第21回胆管膵外科学会，名古屋，
2009年6月11日

野間秀歳，新地洋之，前村公成，又木雄弘，
蔵原弘，前田真一，夏越祥次，高尾尊身

【診療状況】

<外来患者状況>

平成21年度の外来患者総数（延べ）は5,517名であ
った。

その内訳は初診患者：767名

そのうち233名は時間外や休日、深夜の患者である。

再診患者：4,750名

<入院患者> 714名/年

<手術症例>

手術総件数：335件

麻酔別件数：全身麻酔 172件

腰椎・硬膜外麻酔 45件

局所麻酔 34件

緊急手術：79件

鏡視下手術 47件

【主要疾患別手術件数】

大腸がん・直腸癌 25件

胃癌 13件

胆石・胆嚢炎など 28件

急性虫垂炎 20件

鼠径・大腿ヘルニア 54件

膵頭十二指腸切除 6件

乳癌 6件

食道がん 3件

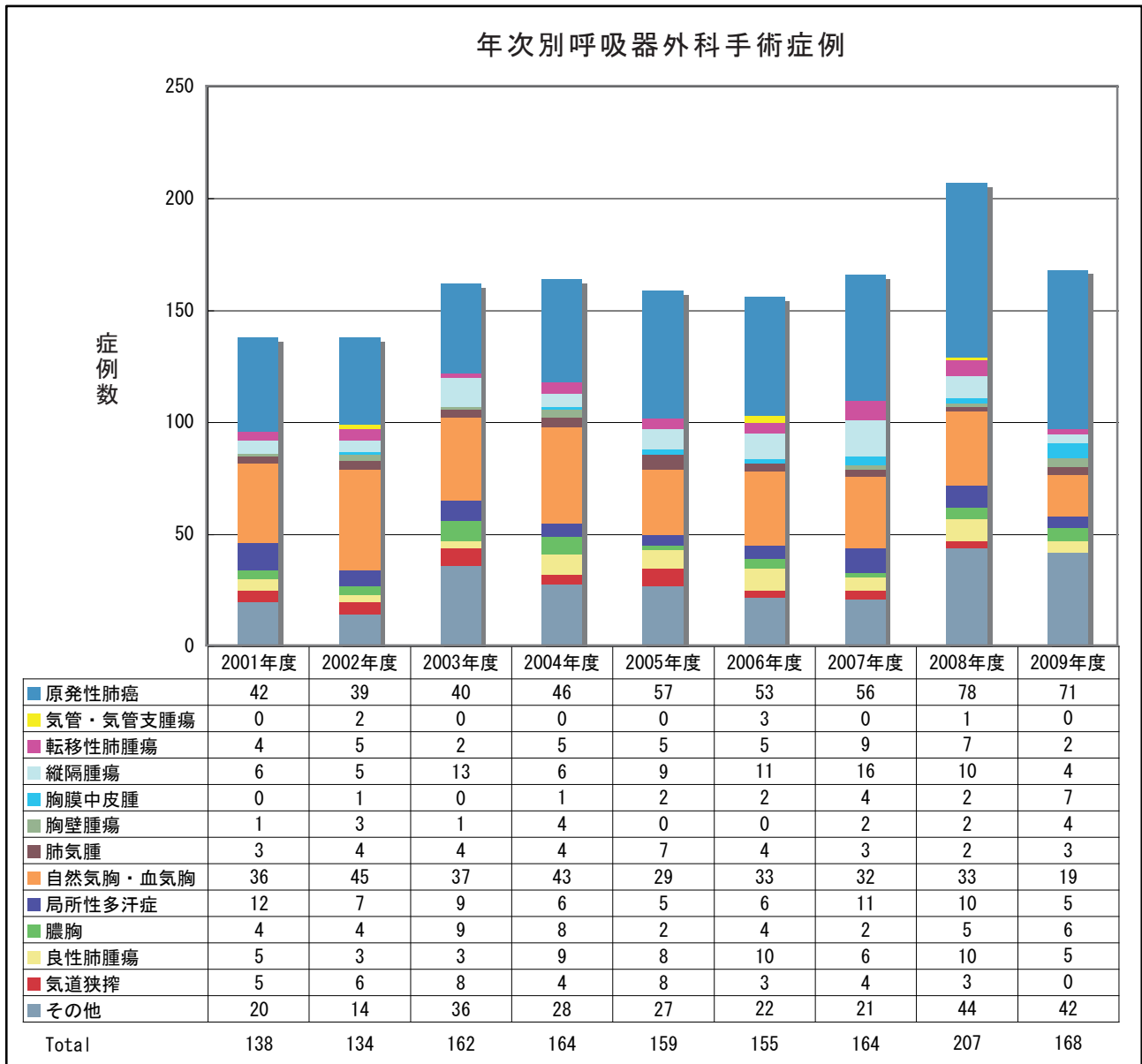
呼吸器外科

呼吸器外科部長 米田 敏

日本外科学会認定医・専門医・指導医 日本呼吸器外科学会専門医・指導医
 日本呼吸器外科専門医認定機構専門医 日本胸部外科学会認定医・正会員
 日本肺癌学会評議員 日本呼吸器外科学会評議員
 九州外科学会評議員 日本胸部外科学会九州地方会評議員
 日本肺癌学会九州支部会評議員 鹿児島肺癌化学療法研究会世話人
 鹿児島肺癌研究会世話人 鹿児島呼吸器外科懇話会世話人
 七隈癌治療フォーラム世話人

今年度は、加藤文章先生の異動（福岡大学大学院病態構造学）により、7月より鹿児島大学第二外科より酒瀬川浩一先生に赴任いただき、巻幡 聡先生と3人体制で診断・治療に従事している。

今年度手術件数は167例で、肺癌71例、転移性肺腫瘍2例、縦隔腫瘍4例、胸膜中皮腫7例、胸壁腫瘍4例、肺気腫3例、自然気胸・血気胸19例、局所性多汗症5例、膿胸6例、良性肺腫瘍5例、その他42例であった。年次推移を、さらに本年度の原著論文、症例報告、学会発表等も以下に示す。



【2009年度 呼吸器外科 業績】

原著論文	発表雑誌	発行の巻(号):頁,年	著者
胸腺腫・胸腺癌の臨床病理 －WHO分類に基づいて－	呼吸	28(1): 37-42, 2009	米田 敏、白日高歩

症例報告	発表雑誌	発行の巻(号):頁,年	著者
肺癌術後小腸転移をきたした 2例	臨床外科学会誌	投稿中	加藤文章, 米田 敏, 光武孝 倫, 牟礼 洋, 田代幸恵, 白 濱 浩, 岩崎昭憲, 白日高歩

学会発表	学会名	場所、月日、年	演者
導入療法を行った臨床病期 IIIA期以上非小細胞肺癌の 検討	第26回日本呼吸 器外科学会総 会、POC	北九州、5月14-15日、 2009年	加藤文章, 米田 敏, 光武孝 倫, 牟礼 洋, 田代幸恵, 白濱 浩, 岩崎昭憲, 白日高歩
腹腔動脈より流入する肺分 画症の一例	第26回日本呼吸 器外科学会総 会、口演	北九州、5月14-15日、 2009年	加藤文章、米田 敏、巻幡 聡、白石武史、岩崎昭憲
胸膜肺全摘術後横隔膜ヘル ニアの経験	第42回日本胸部 外科学会九州地 方会	大分、7月18-19日、 2009年	米田 敏、巻幡 聡、酒瀬川 浩一、白石武史、岩崎昭憲
胸腔鏡補助下左肺S1+2c区域 切除術	第48回鹿児島肺 がん研究会、口 演	鹿児島、10月9日、 2009年	米田 敏、巻幡 聡、酒瀬川 浩一、白石武史、岩崎昭憲
胸腔鏡補助下左肺S1+2c区域 切除術-適応と成績-	第62回日本胸部 外科学会総会、 Klinカルビデオ	横浜、10月11-14日、 2009年	米田 敏、巻幡 聡、酒瀬川 浩一、白石武史、岩崎昭憲

【講演】

「肺がんの予防と予兆－高齢者に対する－」

坂元台健康大学講演 2月例会 2010年2月13日
今給黎総合病院 別館
米田 敏

整形外科・リハビリテーション科

整形外科部長 松 永 俊 二

整形外科の平成21年度の活動状況を報告します。平成21年度は整形外科の手術総数は1,087例と前年度を大きく上回りました。特に脊椎関連の手術は昨年の141件から195件と年々増加しています。特に内視鏡下や顕微鏡下の最少侵襲手術の増加が顕著でした。また大腿骨近位部骨折などの骨折手術も年々増加しています。クリニックの患者数は平均130名/日であり入院患者総数は1,151名で平均稼働率は115.6%で常に満床状態でした。しかし、脊椎、脊髄損傷や化膿性脊椎炎などの疾患が全県下から集まった結果平均在院日数は37.5日と残念ながら本年年度も目標を達成できませんでした。学術活動は日本の主要学会はもちろん海外の学会でも発表を行い今給黎総合病院の学術的評価を高めることができました。整形外科は日本整形外科学会認定の臨床専門研修施設として臨床実地教育にも力を注いでいます。また地域活動としても地域住民を対象とした公開講座なども実施し公益法人としての地域医療に貢献しています。本院の整形外科には日本整形外科学会専門医はもちろんですが脊椎脊髄外科手術指導医、リウマチ専門医、リハビリ専門医、スポーツ専門医などが常勤医として勤務し整形外科関連のあらゆる疾患に対応できる体制を整えています。また公的業務として厚生労働省難治性疾患脊柱靭帯骨化症調査研究班の班員活動も行っており厚生労働省からも高く評価されています。

【スタッフ紹介】〈常勤医〉9名

今給黎尚典 (理事長)	日本整形外科学会 専門医	
鬼丸高茂 (整形外科部長)	日本整形外科学会 専門医 日本スポーツドクター 認定医 日本リウマチ学会 認定医 日本リハビリテーション学会臨床認定医	
松永俊二 (整形外科部長)	鹿児島大学医学部臨床教授 日本整形外科学会 専門医 日本整形外科学会 認定スポーツ医 日本整形外科学会 認定リウマチ医 日本整形外科学会 認定脊髄医 日本リウマチ学会専門医、指導医 日本リハビリテーション医学会 専門医 日本脊椎脊髄病学会 脊椎脊髄外科手術指導医	
古賀公明 (整形外科部長)	鹿児島大学医学部臨床准教授 日本整形外科学会 専門医 日本整形外科学会 脊椎脊髄病医 日本脊椎脊髄病学会 指導医	
宮口文宏 (専門医)	中村俊介 (専門医)	石田育夫 (専門医)
香川陽介 (研修医)	内山田桜 (研修医)	

【人事異動】

退社 8名		
王 興栄	平成21年9月30日退社	(昭和大学へ異動)
高橋健吾	平成21年6月30日退社	(鹿児島大学へ異動)
瀬戸山 傑	平成21年6月30日退社	(鹿児島赤十字病院へ移動)
中島隆之	平成22年9月30日退社	(鹿児島大学へ移動)
中條正瑛	平成21年12月31日退社	(南風病院へ異動)
香川陽介	平成22年3月31日退社	(鹿児島大学へ異動)
内山田桜	平成22年3月31日退社	(鹿児島大学へ移動)
宮口文宏	平成22年3月31日入社	(出水総合医療センターへ移動)

入社 9名

石田育男	平成21年10月1日入社
高橋健吾	平成21年1月1日入社
瀬戸山傑	平成21年4月1日入社
中村俊介	平成21年4月1日入社
宮口文宏	平成21年4月1日入社
内山田桜	平成21年10月1日入社
中島隆之	平成21年7月1日入社
中條正瑛	平成21年10月1日入社
香川陽介	平成22年1月1日入社

【地域貢献】

指宿地区医師会教育研修会講 平成21年5月12日 於 指宿岩崎ホテル
『骨粗鬆症最近の話題について』講師 松永俊二

坂之上地区市民公開講座 平成21年12月17日 於 坂之上公民館
『受験生のための新型インフルエンザの予防』講師 松永俊二

【症例検討会】

レ線カンファレンス 毎日
鹿児島脊椎症例検討会 1回/月

【診療実績】

昭和会クリニック

外来総数	47,420名	新患	1,377名	1日平均	129.9名
------	---------	----	--------	------	--------

今給黎総合病院

外来総数	1,759名	新患	458名	1日平均	4.8名
入院総数	1,151名	平均稼働率	115.6%	平均在院日数	37.4日
手術総数	1,087件	(時間外緊急手術228件)			

【手術内訳】（平成21年4月～平成22年3月）

<u>脊椎（195件）</u>		人工骨頭置換術	59
後頭頸椎固定術	1	大腿骨回転骨切術	5
頸椎椎弓形成術	28	骨盤骨切り術	6
頸椎後方固定術	19	膝関節視鏡下滑膜切除術	3
頸椎前方固定術	10	膝関節視鏡下半月板切除術	13
胸椎後方固定術	5	膝関節鏡視下関節授動術	3
胸椎椎弓切除術	3	膝関節軟骨ドリリング	1
胸椎前方固定術	10	人工膝関節置換術	29
腰椎後方固定術	23	膝前十字靭帯再建術	7
腰椎開窓術	31	脛骨骨切り術	1
腰椎前方固定	11	足関節固定術	1
腰椎椎間板ヘルニア摘出術	23	足根骨骨切り術	1
経皮的髄核摘出術	7	<u>腱・神経手術（31件）</u>	
体外式脊椎固定術 （ハローベスト装着術）	6	アキレス腱縫合術	2
脊髄腫瘍摘出術	1	腱縫合術（手）	11
経椎弓根の椎体形成術	2	腱鞘切開術	8
硬膜外血腫除去術	1	神経縫合術	1
CT下生検	14	神経移植術	1
		手根管開放術	8
<u>骨折（345件）</u>		<u>腫瘍手術（10件）</u>	
鎖骨骨折手術	23	骨軟部腫瘍手術	10
肩甲骨骨折手術	4	<u>抜釘術（94件）</u>	94
上腕骨近位部骨折手術	13	<u>その他（51件）</u>	
上腕骨外顆骨折手術	7	開放創デブリードマン・創傷処理	37
上腕骨顆上骨折 （含経皮的ピンニング）	12	創外固定術	3
上腕骨骨幹部骨折手術	10	経皮的鋼線固定術	8
肘関節内骨折手術	8	減張切開術	1
肘頭骨折手術	6	筋皮弁形成術	1
橈骨遠位端骨折手術	47	気管切開術	1
前腕骨骨折手術	12	<u>感染症手術（15件）</u>	
舟状骨骨折手術	1	感染持続洗浄術	10
手指骨折手術	21	骨髄炎手術	5
骨盤骨折手術	7	<u>救急外来手術（134件）</u>	
大腿骨頸部骨折手術	101	創傷処理術	100
大腿骨骨幹部骨折手術	3	断端形成術	1
大腿骨顆上骨折	4	軟部腫瘍摘出術	2
膝蓋骨骨折手術	7	腱鞘切開術	7
脛骨近位部骨折手術	8	腱縫合術	1
下腿骨骨折手術	22	抜釘術	6
足関節脱臼骨折手術	16	経皮的鋼線刺入骨折固定術	12
踵骨骨折手術	3	手根管開放術	5
足趾骨折手術	10		
<u>切断術（10件）</u>			
下肢	8		
上肢	2		
<u>関節手術（202件）</u>			
肩関節脱臼手術	3		
肩鎖関節脱臼手術	3		
肩腱板手術	20		
人工肘関節置換術	3		
肘関節形成術	3		
鏡視下手関節滑膜切除術	1		
人工股関節再置換術	8		
股関節脱臼観血的整復術	3		
人工股関節置換術	29		

【2009 年度業績】

【論文発表】

【著書】

頸椎下部損傷

松永俊二、古賀公明、小宮節郎

Rothman-Simeone The Spine 脊椎・脊髄外科
(原著 5 版) 1100-1131 金芳堂 2009

【論文】

Diagnostic validity of space available for the spinal cord at C1 level for cervical myelopathy in patients with rheumatoid arthritis.

Oda T, Yonenobu K, Fujimura Y, Ishii Y, Nakahara S, Matsunaga S, Shimizu T, Matsumoto M.
Spine 34: 1395-1398, 2009

Japanese Orthopaedic Association Cervical Myelopathy Evaluation Questionnaire Investigation in Healthy Volunteers.

Matsunaga S, Koga H, Takenouchi T, Nagata M, Takano J, Imakiire T, Komiya S.
Journal Japanese Society for Spine Surgery and Related Research 20: 689-691, 2009

An atypical extrahepatic metastasis of the distal phalanx from hepatocellular carcinoma

Otsuiji M, Matsunaga S, Koga H, N. Kawabata, Imakiire T, Hiwaki T, Tashiro Y, Shirahama, H Komiya S.
Int. J Clin Oncol 14: 159-162, 2009

一般健常者における日本整形外科学会頸部脊髄症評価質問表調査—患者評価の基準として—

松永俊二、古賀公明、竹之内 剛、永田政仁、高野 純、今給黎尚典、小宮節郎
日本脊椎脊髄病学会誌 20-1 : 10, 2009

超高齢者大腿骨近位部骨折非手術患者の受傷後生命予後

本木下 亮、松永俊二、古賀公明、廣田仁志、永田政仁、今給黎尚典、石堂康弘、小宮節郎
整形外科と災害外科 58:55-57, 2009

特集『頸椎後縦靭帯骨化症 (OPLL) の病態と治療』

松永俊二
OPLL の疫学・病因について Clinical Calcium 19:11415-1420, 2009

胸腰椎椎体骨折 (骨脆弱性骨折は含まない) に対する ligamentaxis を用いた後方固定術

石井桂輔、青野博之、古賀公明、高橋総一郎、豊根知明
整形・災害外科 52 : 1643-1651, 2009

An atypical extrahepatic metastasis of the distal phalanx from hepatocellular carcinoma

Otsuiji M, Matsunaga S, Koga H, N. Kawabata, Imakiire T, Hiwaki T, Tashiro Y, Shirahama, H Komiya S.
Int. J Clin Oncol 14: 159-162, 2009

一般健常者における日本整形外科学会頸部脊髄症評価質問表調査—患者評価の基準として—

松永俊二、古賀公明、竹之内 剛、永田政仁、高野 純、今給黎尚典、小宮節郎
日本脊椎脊髄病学会誌 20-1 : 10, 2009

超高齢者大腿骨近位部骨折非手術患者の受傷後生命予後

本木下 亮、松永俊二、古賀公明、廣田仁志、永田政仁、今給黎尚典、石堂康弘、小宮節郎
整形外科と災害外科 58:55-57, 2009

特集『頸椎後縦靭帯骨化症 (OPLL) の病態と治療』

松永俊二
OPLL の疫学・病因について Clinical Calcium 19:11415-1420, 2009

胸腰椎椎体骨折 (骨脆弱性骨折は含まない) に対する ligamentaxis を用いた後方固定術

石井桂輔、青野博之、古賀公明、高橋総一郎、豊根知明
整形・災害外科 52 : 1643-1651, 2009

【学会発表】

一般健常者における日本整形外科学会頸部脊髄症評価質問表調査—患者評価の基準として—

第38回日本脊椎脊髄病学会 神戸
2009年4月24日

松永俊二、古賀公明、竹之内剛、永田政仁、高野純、今給黎尚典、小宮節郎

患者転帰からみた超高齢者大腿骨近位部骨折の手術的治療の意義

第82回日本整形外科学会学術総会 福岡
2009年5月14日

松永俊二、古賀公明、永田政仁、廣田仁志、本木下 亮、鬼丸高茂、堀之内達郎、八木貴史、今給黎尚典、小宮節郎、石堂康弘

RA 手術例における生命予後

第82回日本整形外科学会学術総会 福岡
2009年5月14日

砂原伸彦、恒吉康弘、宮口文宏、石堂康弘、井尻幸成、松永俊二、武富栄二、小宮節郎

人工関節置換術における骨粗鬆症

第82回日本整形外科学会学術総会 福岡
2009年5月14日

有馬正彦、砂原伸彦、恒吉康弘、石堂康弘、井尻幸成、松永俊二、武富栄二、小宮節郎

RA 頰椎病変に対する手術

第82回日本整形外科学会学術総会 福岡
2009年5月14日
米 和徳、井尻幸成、山元拓哉、武富栄二、
砂原伸彦、松永俊二、坂本光、河村一郎、善
明美千久、小宮節郎

周術期抗凝固療法を行った RA 人工関節置換術例に
おける自己血輸血の検討

第53回日本リウマチ学会総会 東京
2009年4月23日
高橋健吾、砂原伸彦、秋元正樹、恒吉康弘、
児玉国洋、井尻幸成、大坪秀雄、松永俊二、
小宮節郎、松田剛正

Radiographic risk factor for spinal cord
injury in patients with ossification of the
posterior longitudinal ligament of the cervi-
cal spine

25th Annual Meeting of CSRS-European
Section Uppsala Concert & Congress
2009/6/10
S. Matsunaga, H.Koga, M. Nagata, T. Tak-
enouchi, S.Komiya.

Genetics of OPLL of the Spine

Spine Across Sea 2009 Maui USA 2009/7/26
H. Koga

頰椎神経根症に対する後方進入内視鏡下椎間孔拡大
術の治療経験

第71回西日本脊椎研究会 福岡
2009年6月12日
宮口文宏、古賀公明、松永俊二、田辺 史、
石堂康弘、米 和徳、小宮節郎、富永博之、
武富栄二、鮫島浩司、川内義久、東郷泰久、
小倉 雅

当院における化膿性脊椎炎の保存的治療期間短縮
の試み

第117回西日本整形災害外科学会 久留米
2009年6月13日
高橋健吾、永田政仁、竹之内剛、古賀公明、
松永俊二、今給黎尚典、小宮節郎

高度に脱臼した胸腰椎部脊椎脱臼骨折の治療経験

第117回西日本整形災害外科学会 久留米
2009年6月13日
中村俊介、宮口文宏、高橋健吾、永田政仁、
竹之内剛、古賀公明、松永俊二、今給黎尚典、
小宮節郎

上位腰椎椎間板ヘルニアに対する内視鏡下手術の
小経験

第117回西日本整形災害外科学会 久留米
2009年6月13日
宮口文宏、古賀公明、松永俊二、田辺 史、
石堂康弘、米 和徳、小宮節郎、富永博之、
武富栄二、鮫島浩司、川内義久、橋口兼久

急性期型病院における後期高齢者整形外科手術の
現況

第118回西日本整形災害外科学会 長崎
2009年11月14日
内山田 桜、松永俊二、中島隆之、中村俊介、
宮口文宏、古賀公明、今給黎尚典、小宮節郎

腰椎レベルの 1 椎間 2 根障害に対して内視鏡的
内側外側同時開窓術を施行した小経験

第118回西日本整形災害外科学会 長崎
2009年11月14日
宮口文宏、内山田 桜、中村俊介、古賀公明、
松永俊二、富永博之、武富栄二、石堂康弘、
米 和徳、小宮節郎

腰部外側神経根障害に対する外側新入内視鏡視下
除圧術を施行した治療経験

第72回西日本脊椎研究会 大分
2009年12月5日
宮口文宏、中條正英、内山田 桜、中村俊介、
古賀公明、松永俊二、今給黎尚典、石堂康弘、
米 和徳、小宮節郎、富永博之、武富栄二、
橋口兼久、鮫島浩司、川内義久

【講 演】

高齢者脊椎疾患の治療上の留意点 - 包括医療に対
する警鐘 -

第 35 回大阪脊椎外科ファオーラム 中之島セ
ンタービル 大阪 2009年7月11日
松永俊二

骨粗鬆症の最近の話題について

指宿地区医師会教育研修会 指宿いわさきホ
テル 2009年5月12日
松永俊二

新型インフルエンザについて - 受験生のための予
防を中心として -

市民公開講座 坂之上公民館
2009年11月17日
松永俊二

形成外科

形成外科部長 高木 信介

【診療内容】

形成外科は、体表を治す外科であり、他の外科には無い特徴があります。主な対象疾患は、先天性疾患(口唇裂、口蓋裂、耳の奇形、手や足の指の奇形、あざ)や、後天性の疾患(腫瘍、外傷等)です。また当院では、体表だけではなく顕微鏡下に血管や神経をつなぐ機能的な再建(指の切断、重要な神経の断裂、外傷後の組織欠損等)、顔面骨折や悪性腫瘍切除後の欠損等の深部の治療も行っております。最終的に日常生活に戻る(社会復帰)ようにすることを最大の目標としています。

【人事】

形成外科は3人が退職、転勤され、4月より後任として2人の先生が赴任されました。

部長の大塚康二朗先生は退職され、4月より宮崎県西都市の大塚病院に新しく形成外科を開設されました。久保麻衣子先生は、福島県の大田熱海病院へ、小野寺剛慧先生は福岡県の新日鉄八幡病院へ転勤されました。

新任の加治佐卓也先生は山形県の鶴岡市立庄内病院、徳元秀樹先生は石川県の恵寿総合病院より赴任されました。

【スタッフ紹介】

高木 信介 (たかぎ しんすけ)

2002年 昭和大学医学部卒業

2002年 昭和大学形成外科学教室入局
昭和大学病院、毛山病院(高知)、
荏原病院(東京)、藤枝市立総合病院(静岡)、
埼玉県立小児医療センター、昭和大学横浜市北部病院勤務

2008年～今給黎総合病院形成外科勤務

2010年4月～現職

日本形成外科学会専門医
医学博士

所属学会

日本形成外科学会、国際形成外科学会、
日本頭蓋顎顔面外科学会、日本美容外科学会、
日本褥瘡学会、日本臨床皮膚外科学会、
日本マイクロサージャリー学会、
日本血管腫・血管奇形研究会

加治佐 卓也 (かじさ たくや)

2003年 防衛医科大学校医学科卒業

2006年8月

昭和大学形成外科学教室入局
千葉大学病院、日立総合病院(茨城)、
鶴岡市立庄内病院(山形)勤務

2010年4月～今給黎総合病院勤務

日本形成外科学会専門医

所属学会

日本形成外科学会、国際形成外科学会、
日本口蓋裂学会、日本再生医療学会

徳元 秀樹 (とくもと ひでき)

2006年 金沢大学医学部卒業

2006年4月～2008年3月、臨床研修

2008年4月

千葉大学形成外科学教室入局
上都賀総合病院(栃木)、恵寿総合病院(石川)勤務

2010年4月～今給黎総合病院勤務

所属学会

日本形成外科学会正会員

【診療状況(2009年1月～12月)】

外来診療

外来初診患者数 1,294件

外来手術件数 423件

(救急における創処理は除く)

外来延べ人数 9,004名

入院診療

入院患者数 416名

入院手術件数 507件

【疾患別手術件数 930 件 (2009 年 1 月～2009 年 12 月)】

疾患名	入院手術件数	外来手術件数
新鮮熱傷	12	0
顔面骨骨折, 顔面軟部組織損傷	65	1
口唇裂, 口蓋裂	1	0
手足の先天異常, 外傷	73	6
その他の先天異常	12	0
母斑, 血管腫, 良性腫瘍	130	374
悪性腫瘍およびそれに関連する再建	66	8
瘢痕, 瘢痕拘縮, ケロイド	23	16
褥瘡, 難治性潰瘍	74	0
美容外科	5	5
その他	46	13

【当科で行った主な手術】

手術の名称	件数
顔面骨骨折 観血的整復固定術	43
切断指再接着術, 神経縫合術	20
四肢再建 (穿通枝皮弁, 遊離複合組織移植)	16
皮膚良性腫瘍切除術	501
皮膚悪性腫瘍切除術+再建術	74
眼瞼下垂	21

【講演】

褥瘡治療 保存療法の限界
 第 3 回鹿児島県創傷セミナー 2010 年 1 月 16 日
 鹿児島
 大塚康二郎

【学会活動】

下肢関節拘縮と仙骨部骨突出・局所圧の関連性について
 の検討—第 3 報—
 第 14 回横浜形成フォーラム 2009 年 6 月 20 日
 横浜
 高木信介

褥瘡治療における皮膚保護パウダーの有用性
 第 11 回日本褥瘡学会学術集会
 2009 年 9 月 4～5 日 大阪
 高木信介

間擦部の浅い褥瘡に対する治療法の検討
 昭和大学形成外科同門会学術集会 2009 年 9 月
 東京
 高木信介

オムツ内の創傷における皮膚保護パウダーの有用性
 第 3 回鹿児島県創傷セミナー 2010 年 1 月 16 日
 鹿児島
 高木信介

開頭術後の頭蓋骨髄炎に対し治療を行った

Werner 症候群の 1 例

日本形成外科学会九州支部学術集会

第80回例会 2009年7月4日 福岡

久保麻衣子

隆起性皮膚線維肉腫 2 例の治療経験

日本形成外科学会九州支部学術集会

第80回例会 2009年7月4日 福岡

小野寺剛慧

仙骨部褥瘡術後管理における自動体位変換機能付

きエアーマットレスの有用性

第9回南九州外傷・形成外科フォーラム

鹿児島

久保麻衣子

外傷後足部変形に対して骨切り術と遊離皮弁を行
った 1 例

第9回南九州外傷・形成外科フォーラム

鹿児島

小野寺剛慧

足部欠損の 2 例

九州昭和大学同門会学術集会 2010年2月

久留米

小野寺剛慧

当院における眼瞼周囲皮膚欠損に対する治療方針

第28回日本臨床皮膚外科学会学術大会

2010年2月27～28日 箱根

大塚康二郎

当院における外鼻皮膚欠損に対する治療方針

第 28 回日本臨床皮膚外科学会学術大会

2010年2月27～28日 箱根

高木信介

【講義】

原田学園 鹿児島医療技術専門学校

2009年6月～7月 毎週火曜日

大塚康二郎, 高木信介

【平成 22 年度の計画】

人員が一人減のため、より形成外科の特色を生かした治療を行っていきたいと思います。

先天奇形、外傷、腫瘍、再建外科に加え、血管・血管奇形の治療も行っていきます。また、機能的な再建では術後の後療法に重点をおき、リハビリテーション部と協力して強化していきます。

脳神経外科

脳神経外科部長 西澤輝彦

【特色】

脳神経外科は平成元年の総合病院化とともに開設され、かれこれ20年となりました。微力ながら脳血管障害の外科的治療を中心に地域医療に貢献してきました。鹿児島で最も早くからカテーテルを用いた脳神経血管内治療を手がけ、特に脳動脈瘤の瘤内塞栓術と一昨年から保険が認可された頸動脈狭窄症に対するステント留置術など、虚血性脳疾患に対する血行再建術には鹿児島の主導的施設として積極的に取り組んで来ました。特にこの数年は頸動脈ステント留置術は県内でも最も良好な治療成績を上げている施設です。脳神経外科専門医訓練施設、脳卒中治療医訓練施設、頸動脈ステント実施認定施設にも認定され各種学会専門医の教育施設ともなっています。また急性期型総合病院にあって多発外傷に伴った頭部外傷や悪性腫瘍の脳転移なども多いのが特徴で、各科と共同で集学的治療が行える施設でもあります。

【人事・スタッフ】

開設以来スタッフは2～3名を確保してきましたが、大学医局人事や常勤医の開業などのあおりでこの数年間は一人部長となり、救急の受け入れ制限や外来の縮小、大学からの非常勤の応援で何とかやりくりをしてきました。産科、小児科、救急医などと同様に脳神経外科医も減少傾向にあります。この様な人材の厳しい情勢の中、鹿児島大学脳神経外科医局のご好意でようやく平成20年4月から念願の常勤医再派遣を頂けることとなりました。現在は専門医と専門医所得前の2名ですが、来年度からは3名に増員の予定です。

【スタッフ紹介】

〈常勤医〉

部長（副院長、医療情報システム管理者兼任）
西澤 輝彦

1979年 鹿児島大学卒業

〈取得資格〉

医学博士

日本脳神経外科学会専門医

日本脳神経血管内治療専門医

日本脳卒中学会治療専門医

頸動脈ステント留置術実施医

鹿児島市立病院非常勤医師

〈所属学会〉

日本脳神経外科学会（評議員）、日本脳卒中学

会、脳卒中の外科学会、日本脳神経血管内治療学会、日本小児脳神経外科学会、日本脳神経外科学コンGRESS、脳ドック学会他

新里 友美

2004年 長崎大学卒業

〈所属学会〉

日本脳神経外科学会、日本脳神経血管内治療学会

〈非常勤医師〉

有田 和徳 鹿児島大学脳神経外科教授

平野 宏文 鹿児島大学脳神経外科講師

寺田 耕作 串木野脳神経外科センター

【学会発表】

頸部頸動脈狭窄症におけるステント留置術

—連続180病変における治療成績—

第34回日本脳卒中学会総会 島根

2010年3月22日

永山哲也、西牟田洋介、菅田真生、森正如、西澤輝彦、有田和徳

頸部内頸動脈狭窄症による眼虚血症候群の予後

—頸動脈ステント留置術（CAS）施行群における検討—

第34回日本脳卒中学会総会 島根

2010年3月22日

菅田真生、永山哲也、西牟田洋介、西澤輝彦、有田和徳

高齢者における頸部頸動脈狭窄症に対するステント留置術

第22回日本老年脳神経外科学会 広島

2010年3月7日

永山哲也、西牟田洋介、菅田真生、森正如、西澤輝彦、有田和徳

椎骨脳底動脈合流部の窓形成に伴う動脈瘤の8症例

第68回日本脳神経外科学会学術総会 東京

2009年10月15日

田中俊一、時村洋、内田浩之、菅田真生、永山哲也、牧内恒生、高崎孝二、友杉哲三、平原一穂、西澤輝彦、有田和徳

頸部頸動脈狭窄症におけるステント留置術

—連続203病変における治療成績—

第25回日本脳神経血管内治療学会総会 富山

2009年11月19日

永山哲也、西牟田洋介、菅田真生、森正如、西澤輝彦、有田和徳

虚血性心疾患を合併する無症候性頸動脈狭窄症の
治療方針

第25回日本脳神経血管内治療学会総会 富山
2009年11月19日
菅田真生、永山哲也、西牟田洋介、西澤輝彦、
有田和徳

【診療実績】入院患者疾患別分類（2009年1～12月）

脳腫瘍	神経膠腫	7
	髄膜腫	3
	下垂体腺腫	1
	転移性脳腫瘍	6
	合計	16

小児神経外科	水頭症	2
	合計	2

機能的脳神経外科	てんかん	1
	合計	1

血管病変	クモ膜下出血(破裂脳動脈瘤)	4
	未破裂脳動脈瘤	8
	高血圧性脳出血	11
	脳梗塞	5
	動脈狭窄(閉塞)	17
	モヤモヤ病	0
	その他	2
	合計	47

頭痛	合計	1
----	----	---

感染症	脳膿瘍	1
	その他	2
	合計	3

その他	合計	1
-----	----	---

慢性硬膜下血腫	合計	19
---------	----	----

合計	199人
----	------

頭部外傷	急性硬膜外血腫	2
	急性硬膜下血腫	7
	脳挫傷	7
	その他	7
	合計	23

【手術症例】

開頭術	腫瘍	全摘出術/亜全摘	3
	動脈瘤	クリッピング	4
穿頭術	硬膜下血(水)腫洗浄術		28
	脳室ドレナージ		3
短絡術	V-Pシャント		5
	その他		2
血管内手術	動脈瘤		4
	血管形成術(PTA)		3
	血管形成術(STENT)		8
	その他		1
その他			16

合計 65

産婦人科

産婦人科部長 寺原賢人

私が当院に赴任してから23年が経過してしまいました。入院患者数で振り返ってみますとかなりゆっくりとしたペースで発展している様子がわかります。平成5年から宮崎医大（現宮崎大学医学部）から医師の派遣を頂くようになり教室のメインテーマである周産期医療の充実が計られるようになり平成7年には民間病院初のNICUが開設されました。そして新生児部門は市立病院新生児センターの指導のもと後方支援ベッドとして着実な発展がみられ今日では地域周産期母子医療センター（NICU9床、GCU10床）の指定を受けるまでになっております。新生児センターは現在新生児内科と標榜し順調に発展しております。

一方、産科部門はNICUの開設に伴ってハイリスク妊婦の搬送を受けるようになり徐々に増加して参りましたが、しかしながら正常分娩がなかなか増加しません。人的サポート体制はかなり充実していると思っておりますがやはり総合病院の一角で妊婦の希望に応えられずアメニティの改善が追いつかないのも要因と考えます。昨年5月からは新たに徳永修一部長が周産期医療に加わり母体搬送も増加して参りました。当院は新病院が出来るまではハイリスク妊婦を対象に頑張っていくことになろうかと思われまます。

婦人科部門は腫瘍を中心に診療しておりますが内容に関しては目立った変化はありません。良性腫瘍の手術、悪性腫瘍の手術・化学療法など例年増加しておりますがさらなる発展のためには産科、婦人科部門を含めて人材の確保が急務と思っております。

本年度も宮崎大学、鹿児島市立病院、鹿児島大学の御支援を頂きました。また院内各診療科、検査室、看護部、事務部他関連部署の皆様にも御支援、御協力を頂きまして心から御礼を申し上げます。

【年度別患者数】

年度	婦人科	産科	新生児科	計
S. 63	131	111		242
H. 1	138	136		274
2	145	139		284
3	175	139		314
4	142	147		289
5	167	173		340
6	177	177	40	394
7	173	172	46	391
8	175	172	59	406
9	160	179	107	446
10	130	157	82	369
11	175	206	100	481
12	161	214	81	456
13	220	236	117	573
14	244	183	124	551
15	276	179	145	600
16	243	199	150	592
17	191	209	127	527
18	197	186	170	553
19	196	258	168	622
20	208	265	142	615
21	243	246	164	653
計	4067	4083	1822	9972

【年度別統計】

		18年度	19年度	20年度	21年度
新患総数		972	944	845	826
入院数	婦人科	197	196	208	243
	産科	186	258	265	246
	新生児科	170	168	142	164
計		553	622	615	653
手術件数	婦人科	108	153	129	112
	産科	66	69	62	78
	計	174	222	191	190
分娩数		156	182	185	175
	帝王切開	(59)	(67)	(54)	(70)

【平成 21 年度入院患者内訳】

産科		婦人科	
分娩	175	子宮筋腫	27
切迫流産	13	子宮脱	10
切迫早産	19	子宮内膜症	8
妊娠高血圧症	11	卵巣のう腫	29
子宮外妊娠	3	子宮頸部癌	45 (14)
前置胎盤	2	子宮体部癌	37 (8)
胎児機能不全	17	卵巣癌	43 (12)
胎児発育不全	6	その他	44
(母体搬送)	(42)		
延患者数	246		243 (実数)

【年度別手術内訳】

		18年度	19年度	20年度	21年度
子宮筋腫	単純子宮全摘出術	19	18	17	11
	筋腫核出術	15	9	14	16
子宮腺筋症	単純子宮全摘出術	4	9	2	4
子宮脱	根治手術	10	15	3	10
子宮頸部癌	円錐切除術	10	24	12	13
	単純子宮全摘出術	0	2	2	3
	拡大子宮全摘出術	0	1	1	1
	広汎子宮全摘出術	2	1	1	1
子宮体部癌	単純子宮全摘出術	3	1	3	0
	拡大子宮全摘出術	1	2	1	3
	広汎子宮全摘出術	0	1	1	2
卵巣嚢腫	附属器切除術				21
	嚢腫摘出術	30	25	36	8
卵巣癌	根治手術	3	7	7	7
	化療後再開腹	0	0	1	1
不妊症他	内視鏡下手術	6	13	6	8
産科	帝王切開術	59	67	54	70
	子宮外妊娠手術	6	9	7	2
	頸管縫縮術	1	1	1	1
その他		5	17	21	8
計		174	222	190	190

【平成 21 年度悪性疾患内訳】

	手術	化療	手+放	手+化	放+化	放射線	計
子宮頸癌	8	1 (1)	0	5	0	1	15 (1)
子宮体癌	1	1	0	6	0	0	8
卵巣癌	3	5 (2)	0	4	0	0	12 (2)
計 (死亡)	12	7 (3)	0	15	0	1	35 (3)

【平成 21 年度産婦人科勤務医】

寺原賢人	S. 63. 1. 1	——現在
丸山有子	H. 19. 6. 1	——現在
加藤明彦	H. 19. 10. 1	——現在
徳永修一	H. 21. 5. 1	——現在

新生児内科

新生児内科部長 丸山 有子

【TOP NEWS】

- ・平成20年度に地域周産期母子医療センターとして指定を受け、鹿児島県での当院の役割はますます重要なものとなってきましたが、その需要に答えるため、平成21年4月から、NICUは9床に増床されました。
- ・新生児フォローアップ外来が、7月から昭和会クリニック4階へ移転しました。
- ・以前より周産母子センターや産婦人科の医事業務を行ってこられた医事課の道岡美香さんが平成22年2月より、NICU内に常在されるようになりました。

【人 事】

- ・NICU・GCUは、新生児科と産婦人科の医師で診療をおこなっていますが、産婦人科の土井宏太郎先生が4月に宮崎大学へ帰られ、5月より徳永修一先生が産婦人科部長として就任されました。そのため、5月以降は、丸山、徳永修一、加藤明彦先生の3名で日々の診療を行いました。また、当院の初期研修医である下倉眞平先生が、平成21年12月から22年3月までの4ヶ月の間、NICU・GCUで研修され、4月からは鹿児島市立病院総合周産期母子医療センターの後期研修医となりました。
- ・今年度、NICU・GCUの夜間当直業務は、当院と鹿児島市立病院新生児科と鹿児島大学産婦人科の医師により行われました。
- ・看護スタッフは37名（Ns. 36名、看護助手1名）、NICU・GCU専任作業療法士1名（平成22年3月現在）
- ・乳幼児の発達検査のために、鹿児島市立病院より吉永明美臨床心理士に来ていただいています。（月2回）
- ・療育指導外来には、東京小児療育病院より奈須康子先生に来ていただいています。（月1回）

【入院状況】

- ・総入院数児数と体重別入院時数の経年推移をグラフ・表1に示しています。今年度の入院児数は164名でした。表2は、入院経路別入院児数です。鹿児島市立病院からの新生児搬送は近年やや減少傾向にあり、平成21年度は66名（40%）でした。このことは母体搬送例の増加や三角搬

送^{*}の増加などが影響していると考えられます。また、表3に示すごとく、近年の傾向として人工呼吸管理施行例数の増加があります。

^{*}三角搬送：市立病院のドクターカーが新生児搬送依頼施設へ迎えに行き、市立病院を經由せずに当院へ搬送すること。

【外来状況】

- ・新生児フォローアップ外来
平成19年6月から週1回でスタートした当外来も、次第に患者数が増加し、21年度の年間受診者数はのべ527名でした。受診される児も成長し、歩行可能な児が多くなってきたため、従来の婦人科外来では対応しきれなくなってきました。そのため、21年7月に昭和会クリニック4階へ移転いたしました。診察室に設置したマットの上でおすわりやハイハイの様子を評価し、広い待合室では歩行やかけっこの様子を観察できるようになりました。
- ・シナジス外来
今年度、当外来でシナジスを投与した児は合計80名でした。
月別接種者数は表4のとおりです。
- ・発達検査
月1回2～3名に対して新版K式発達検査を行ってきました。21年度は28名が受けました。
- ・療育相談外来
月1～2組ずつ行い、21年度は10名が受けました。

【入院総数】

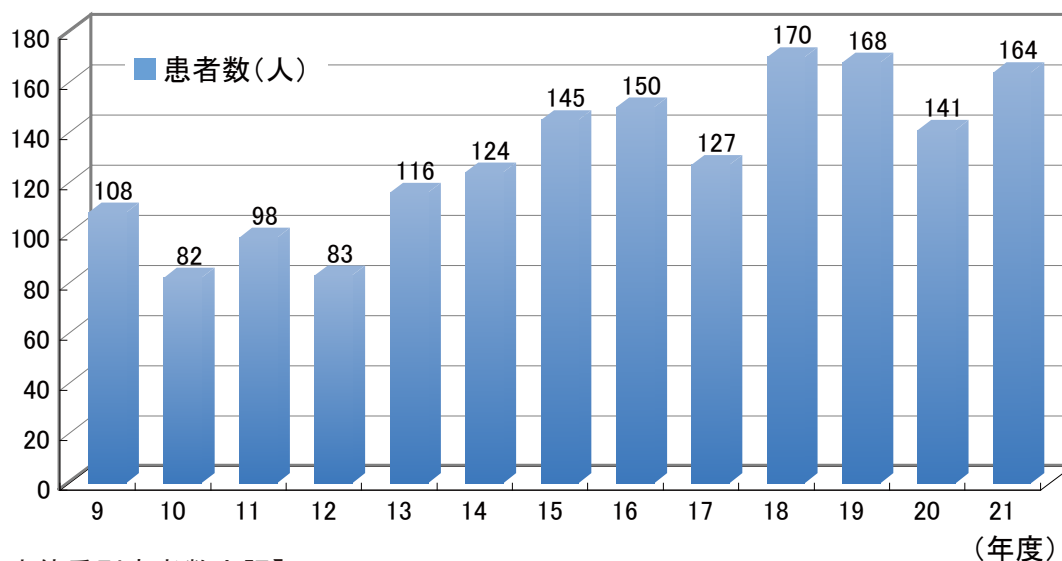


表 1 : 【出生体重別患者数内訳】

年度(平成)	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21
～999g	6	8	12	3	3	5	7	7	3	0	1	3	3
1000g～1499g	23	21	16	16	15	16	25	36	27	18	32	35	26
1500g～1999g	31	25	26	21	35	48	53	58	46	67	61	43	46
2000g～2499g	18	9	28	21	36	23	33	25	34	55	31	35	52
2500g～	30	19	16	22	27	32	27	24	17	30	43	25	37

表 2 : 【入院経路別患者数および院内出生率】

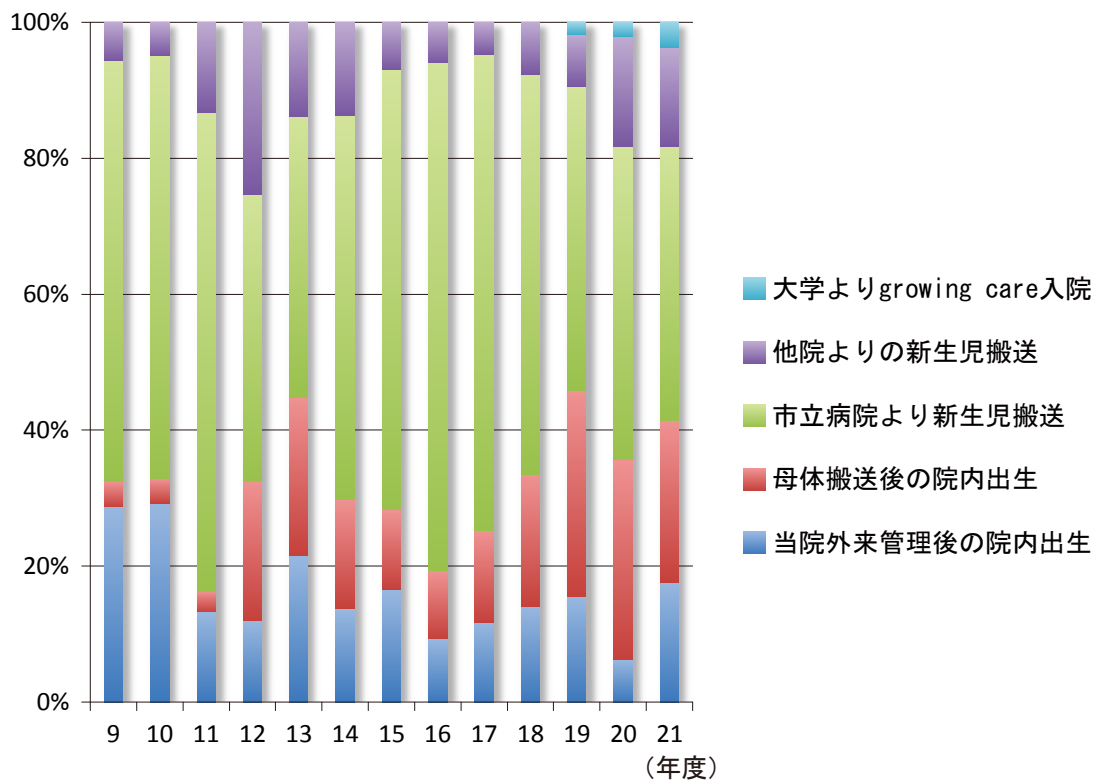
	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21
当院外来管理後の院内出生	31	24	13	10	25	17	24	14	15	24	26	9	29
母体搬送後の院内出生	4	3	3	17	27	20	17	15	17	33	51	42	39
市立病院より新生児搬送	67	51	69	35	48	70	94	112	89	100	75	66	66
市立病院よりO生日の搬送		2	6	3	7	12	7	6	18	26	11	10	6
大学よりgrowing care入院											3	3	6
他院よりの新生児搬送	6	4	13	21	16	17	10	9	6	13	13	23	24
他院よりコウノトリ号で三角搬送					2	4	8	3	1	1	2	6	11
院内出生率(%)	32.4	32.9	16.3	32.5	44.8	29.8	28.3	19.3	25.2	33.5	45.8	36.2	41.4

表 3 : 【人工呼吸管理施行患者数】

年度(平成)	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21
人工呼吸管理施行数(nasal CPAP)					1		5	4	5	9	15	19	12
人工呼吸管理施行数(挿管症例)	10	5	4	9	7	10	4	2	4	4	21	19	13

表 4 : 【シナジス外来患者数】

月	9	10	11	12	1	2	3	4
人数(人)	35	38	42	47	52	60	59	64



【いろいろな活動】

- ・ PIPC(早産児の両親学級)
 - 12回開催し、98人の方が聴講してくださいました。
- ・ スタッフのための勉強会
 - ▷ 月曜レクチャー (40回開催)
 - ▷ 茨 聡先生による新生児学レクチャー
21年度も合計12回、新生児医療に関するレクチャーを行っていただきました。
 - ▷ NCPRシュミレーション：年間4回施行。
- ・ 地域連携のための活動
 - 第1回子どもすこやか安心ネット事業調整会議への出席 (平成21年6月11日)
本山美穂、原田純子、古川秀子、丸山有子
 - 第2回子どもすこやか安心ネット事業調整会議への出席 (平成21年12月17日)
本山美穂、原田純子、丸山有子
 - 第1回ハイリスク母子保健施設間医療連携会議への出席 (平成21年9月28日)
本山美穂、原田純子、古川秀子
 - 第2回ハイリスク母子保健施設間医療連携会議への出席 (平成21年12月17日)
本山美穂、原田純子、古川秀子
 - 第2回みらい連携会議への出席
(平成21年10月15日)
本山美穂、原田純子、中村 環、丸山有子

・ 院外教育活動

- 加藤明彦：久木田学園看護専門学校 看護科 (母性看護学・女性生殖器) 30時間
- 丸山有子：南学園 鹿児島医療福祉専門学校 看護学科 疾病論VI (母性 正常・異常) 15時間

・ 実習受入れ

- 久木田学園看護専門学校 母性看護学実習
前期 5月25日～6月18日 (16名)
後期 11月2日～6日 (4名)

【講演】

- 地域周産期母子医療センターの概要と取り組みについて
鹿児島県保健福祉部子ども福祉課母子保健係
ハイリスク母子保健訪問指導研修会
2009年8月28日
古川秀子、本山美穂、原田純子
- 先天性サイトメガロウイルス感染症の新生児医療
第2回 神戸周産期感染症研究会 特別講演
神戸 2010年1月21日
丸山有子
- 地域周産期母子医療センターの概要と取り組みについて
鹿児島市保健所保健予防課 母子保健事業関係者研修会 2010年2月15日
古川秀子、本山美穂、原田純子

【学会発表】

より安全な経口哺乳を目指して
第54回九州新生児研究会 福岡 2009年5月16日
有村こずえ、中村 環、原田純子、古川秀子、丸山有子

先天性サイトメガロウイルス感染の新生児期スクリーニング検査
第45回日本周産期新生児医学会 名古屋
2009年7月12-14日
丸山有子 他

当院における皮膚ケアの現状と課題～肛門周囲皮膚炎のケアを考える～
第55回九州新生児研究会 福岡 2009年11月7日
石川めぐみ、原田純子、古川秀子、丸山有子

サイトメガロウイルス感染児25例におけるガンシクロビルと聴覚予後
第54回日本未熟児新生児学会 横浜
2009年11月29日-12月1日
丸山有子 他

3次施設から2次施設へ転院する児の家族不安に対する支援の検討
第19回日本新生児看護学会 横浜
2009年11月30日
石川めぐみ、田代恵美子、原田純子、古川秀子、丸山有子

人工乳首の選択による直接母乳への効果を考える
第43回鹿児島県保健看護研究会 鹿児島
2010年1月22日
原田純子、古川秀子、丸山有子

当院NICUの養育環境の現状と今後の課題～室温・湿度の測定結果より～
第12回新生児呼吸療法・モニタリング フォーラム 長野 2010年2月18日
中尾咲子、倉園美衣子、原田純子、古川秀子、加藤明彦、丸山有子

【院内発表】

フォローアップ外来から病棟看護へのフィードバックの取り組み
院内：レベルV研修（平成21年11月）
本山美穂

当院NICUの光・音環境の現状と今後の課題
院内看護研究発表会（平成22年2月）
飯塚君枝、倉園美衣子、原田純子、古川秀子

【著書】

丸山有子.
育児支援;妊婦健康診査パーフェクトマニュアル.
ペリナタルケア2010年新春増刊号:227-232.

丸山有子.
無呼吸;新生児呼吸管理 なるほどQ&A.
ネオネイタルケア 2010年春季増刊号: 18-24.

【資格取得等】

瀬戸口めぐみ:日本周産期・新生児医学会による新生児蘇生法「専門」コース修了認定

中尾絵里子:日本周産期・新生児医学会による新生児蘇生法「専門」コース修了認定

富永貴子:日本周産期・新生児医学会による新生児蘇生法「専門」コース修了認定

金坂真美:日本周産期・新生児医学会による新生児蘇生法「専門」コース修了認定

萩原順子:日本周産期・新生児医学会による新生児蘇生法「専門」コース修了認定

古木真希子:日本周産期・新生児医学会による新生児蘇生法「専門」コース修了認定

出口 忍:日本周産期・新生児医学会による新生児蘇生法「専門」コース修了認定

中尾咲子:日本周産期・新生児医学会による新生児蘇生法「専門」コース修了認定

【今後の展望および平成22年度の計画】

GCUを10床へ増床する

他の社会資源（保健所、リハビリ施設、訪問看護ステーションなど）との連携をさらに強化する

- ・Developmental Careに関する看護研究の継続
- ・木曜レクチャー「新生児ケア」開始
- ・新病院でのDICU新設に向けての施設視察

小 児 科

小児科部長 玉 田 泉

【診療内容・特徴】

平成21年度も銚之原昌医師、堀之内兼一医師、玉田の3名で診療いたしました。一般外来のほか、堀之内先生は小児腎疾患患者のfollow、また玉田は小児内分泌疾患の専門外来を実施しています。一般外来の特徴としては検査の出来る総合病院といった位置付けでの受診が多く、セカンドオピニオンを求めている検査を希望されての受診が多いようです。その他市県からの委託による乳幼児健診、予防接種業務を行っており、又学校健診・学校検尿や生活習慣病予防健診での精密受診者の受け入れや精密検査後のfollowも行っています。入院業務では近隣の開業医の先生方から多くのご紹介を頂き、比較的軽症の一般小児疾患の入院加療、また専門性を生かした検査入院や教育入院などを行いました。

院内に職員の子供さん対象の病児保育室が設置され運営を開始しました。子育て世代の職員のバックアップのためスタッフともども貢献できればと考え運営協力しています。

【診療状況】

外来診療 外来患者数延べ 10,315 人
(人数は平成21年1～12月のものです)

入院患者実数 199 人 (平成21年度分)

【検査件数、治療成績など】

入院疾患別延べ人数

急性気管支炎・肺炎	106 人
糖尿病 (教育・コントロール)	18 人
成長ホルモン分泌能精査入院	17 人
急性胃腸炎	15 人
急性上気道炎・中耳炎	9 人
気管支喘息	7 人
アレルギー性紫斑病	6 人
その他	21 人

特徴としてはRSウイルスによる低年齢児の肺炎の入院が多く認められたこと、糖尿病や内分泌の検査やコントロール入院の数が多かったことなどがあげられます。

【スタッフ紹介・講義 / 院外活動】

銚之原昌：小児科専門医、小児リウマチ専門医

- 1) 鹿児島子どもの虐待問題研究会 会長
年6回協議会開催 (1/27～)
- 2) 鹿児島県膠原病研究会 代表世話人、年2回研究会開催 (2/12, 7/23)
- 3) 鹿児島文化サロン 委員として参加 (2/1)
- 4) 鹿児島小児膠原病父母の会ひまわりの会 (8/2) 委員として参加
- 5) 南日本子ども健康セミナー (9/17) 育児相談など
- 6) 鹿児島市すこやか子ども元気プラン地域協議会 (11/13) 委員として参加

その他：鹿児島県保育所乳児保育研修会講師 (8/24)
鹿児島県立短期大学非常勤講師 (小児栄養学)

堀之内兼一：小児科専門医、日本補完代替医療学会学識医

鹿児島市医師会学校腎臓病健診 委員
久木田看護専門学校 講師

玉田 泉：小児科専門医、日本糖尿病協会登録医
加治木女子高等学校看護学科専門課程 講師
鹿児島大学小児科 非常勤講師

【その他】

平成21年3月6日、8月1日には医師会主催のこども予防接種週間に参加して土曜の午後に予防接種業務を行いました。

【平成 21 年度 小児科業績】

【学会発表】

小児期発症SLEにみられた帯状疱疹の検討

第 53 回日本リウマチ学会 東京

2009年4月23日

安村純子, 今中啓之, 鋤田直美, 根路銘安仁, 野中由希子, 山崎雄一, 久保田知洋, 嶽崎智子, 赤池治美, 前野伸昭, 重森雅彦, 森浩純, 銚之原 昌, 武井修治.

トシリズマブ加療中に感染性胃腸炎でCRP上昇をきたした全身型若年性特発性関節炎.

第 38 回九州リウマチ学会 久留米市

2009年9月5-6日

安村純子, 根路銘安仁, 今中啓之, 野中由希子, 山崎雄一, 鋤田直美, 前野伸昭, 赤池治美, 武井修治, 嶽崎智子, 久保田知洋, 銚之原昌.

JIAに対する生物学的製剤の現状と問題点 一導入時の状況.

第 38 回九州リウマチ学会 久留米市

2009年9月5-6日

久保田知洋, 安村純子, 山崎雄一, 鋤田直美, 赤池治美, 野中由希子, 嶽崎智子, 前野伸昭, 今中啓之, 銚之原 昌, 武井修治.

JIAに対する生物学的製剤の現状と問題点 一有効性と安全性.

第 38 回九州リウマチ学会 久留米市

2009年9月5-6日

鋤田直美, 安村純子, 山崎雄一, 久保田知洋, 赤池治美, 野中由希子, 嶽崎智子, 前野伸昭, 今中啓之, 銚之原 昌, 武井修治.

トシリズマブ投与中におけるMASの早期診断の試み.

第 38 回九州リウマチ学会 久留米市

2009年9月5日

根路銘安仁, 鋤田直美, 安村純子, 山崎雄一, 久保田知洋, 赤池治美, 野中由希子, 嶽崎智子, 前野伸昭, 今中啓之, 銚之原昌, 武井修治.

性格変化で発見されたリンパ球性漏斗下垂体後葉炎の1例.

第 43 回日本小児内分泌学会 宇都宮

2009年10月1-3日

石川珠代, 溝田美智代, 児玉祐一, 上野さやか, 大坪喜代子, 河野嘉文, 玉田 泉, 森田 智, 檜作和子.

JIAに対する生物学的製剤の現状と問題点一有効性と安全性

第 19 回日本小児リウマチ学会 京都市 2009

年 10 月 2-4 日

鋤田直美, 安村純子, 山崎雄一, 久保田知洋, 赤池治美, 野中由希子, 嶽崎智子, 前野伸昭, 今中啓之, 根路銘安仁, 銚之原昌, 武井修治.

トシリズマブ加療中に感染性胃腸炎で CRP 上昇をきたした全身型若年性特発性関節炎.

第 19 回日本小児リウマチ学会 京都市

2009年10月2-4日

安村純子, 根路銘安仁, 今中啓之, 野中由希子, 山崎雄一, 鋤田直美, 前野伸昭, 赤池治美, 武井修治, 嶽崎智子, 久保田知洋, 銚之原昌.

下垂体茎断裂症候群が疑われた1例.

第14回鹿児島県小児内分泌研究会 鹿児島市

2009年11月14日

玉田泉, 谷本憲保, 溝田美智代.

当院で経験した性分化異常症の検討.

第 14 回鹿児島県小児内分泌研究会 鹿児島市

2009年11月14日

四元景子, 溝田美智代, 上野さやか, 玉田泉, 大坪喜代子, 檜作和子, 森田智, 川越真理, 河野嘉文.

生物学的製剤で治療されたJIAにおける悪性疾患発生に関する全国調査.

第 39 回九州リウマチ学会 福岡

2010年3月6-7日

山崎雄一, 安村純子, 鋤田直美, 野中由希子, 前野伸昭, 久保田知洋, 赤池治美, 嶽崎智子, 今中啓之, 銚之原 昌, 杉原暁美, 武井修治.

【原著】

1型糖尿病患者の学校生活について一学校給食についてのアンケート結果も含めて一

小児保健かごしま 22:36-37, 2009

溝田美智代, 池田さやか, 大坪喜代子, 河野嘉文, 玉田 泉, 森田 智.

【平成 22 年度計画】

引き続き銚之原・堀之内・玉田の3名で診療します。銚之原先生は平成22年度は放送大学での講義も開始予定です。

泌尿器科

泌尿器科部長 中目康彦

平成22年4月より種田先生、下荒磯先生、米澤先生の後任として松下真治先生が県立大島病院より部長として着任、石原知明先生は国立都城病院、大迫洋一先生は串間市立病院より来られ4人態勢で診療しています。外来は木曜（手術日）以外の午前中診療しており救急は24時間体制で対処しております。扱う疾患は副腎から精巣までの泌尿器科全般から熱中症などの血液浄化部門で幅広い疾患を対象としています。手術は腎臓に関しては主に腹腔鏡下手術を選択しています。低侵襲性であり早期退院が可能です。前立腺悪性腫瘍は手術以外に前立腺内にseedsを挿入し癌を根治させる密封小線源療法も施行しています。

密封小線源法は現在までに100名以上の方が治療を受けられ大変良い成績です。また脳血管系に合併症のある方も安心して受けられる治療法なので、治療方法選択の相談に来院されることを望んでいます。前立腺は男性ですが、女性の疾患の腹圧性尿失禁にTVT法、TOT法、最近は骨盤内臓器脱に対してTVM法を行っています。小児泌尿器は大学より小児泌尿器科医を招聘し治療しています。

以上のように新しい治療からオリジナルな治療まで、血液透析から膀胱機能まで幅広く診察、治療しながら外来、入院スタッフとともに我々4名で頑張っています。

分類	手術	件数
腎・尿管	腹腔鏡下副腎摘出術	5
	腎摘除術	9
	腹腔鏡下腎摘除術	4
	HALS	2
	腎部分切除術	4
	腎尿管全摘術	4
	腹腔鏡下腎尿管摘除術	2
	腎瘻造設術	6
	経尿道的尿管結石砕石術	4
	尿管切石術	1
膀胱	経尿道的膀胱腫瘍切除術	57
	膀胱全摘除術	6
	膀胱部分切除術	2
	膀胱切石術	1
尿道	TVT手術	1
	内尿道切開術	6
	尿道カルンクラ手術	1
前立腺	経尿道的前立腺手術	34
	前立腺全摘除術	20
	前立腺密封小線源療法	56
陰茎・精巣	精巣摘除術	8
	精巣固定術	1
	精巣外傷手術	1
	会陰部デブリードメント	1
	陰茎腫瘍切除術	2
	冠状切開術	3
その他	内シャント造設術	7

眼 科

眼科部長 北村 昌 弥

平成21年度は昭和大学より岡和田先生が着任し、北村部長、須田先生との3人体制で診療に当たりました。

【外来スタッフ】

専任の川崎看護師、郡山看護師に加え川口看護師、熊迫看護師の合計4名が担当しております。
検査・診療補助は椿視能訓練士、二反田、木之下、秋山、鶴之園、料屋、受付は赤塚、泊で行なっております。

【外来診療体制】

平日午前は3人体制、午後は1人体制で外来診療を行っております。
土曜日は新患と予約のみ診療を行っております。

【外来診療実績】

平成21年度は新患数1,861名、再来数12,491名、合計14,352名が来院されました。
新患は近医からの紹介が多く、難症例の手術依頼も多数あります。
また外来では、普通診療の他にもレーザー治療や処置も多数施行しております。

【手術実績】

内眼手術、外眼手術総数は896件でした。
この中には非常に多数の難症例も含まれておりました。

【入院治療】

4階北病棟が眼科病棟でした。（平成22年度より4階西病棟へ変更になります。）
稲森師長を中心に看護・治療にあたっています。
高齢者はもとより、糖尿病、認知症などを有する患者様も多く、糖尿病内科の盛満先生をはじめ、各科の諸先生方には大変お世話になっております。
どうか今後ともよろしくお願い申し上げます。

気管食道・耳鼻いんこう科

気管食道・耳鼻いんこう科部長 昇 卓 夫

【平成21年度手術件数】

a) 耳科領域	31件
1. 鼓膜チューブ留置術（全麻）	4件
2. 鼓膜形成術	10件
3. 鼓室形成術	13件
4. 顔面神経減荷術	1件
5. その他	3件
b) 鼻科領域	80件
1. 鼻中隔矯正術、両下鼻甲介切除術	14件
2. 鼻内副鼻腔手術（内視鏡下）	61件
3. 副鼻腔のう胞手術	5件
c) 口腔・上中咽頭領域	88件
1. 口蓋扁桃手術	82件
2. アデノイド切除術	2件
3. 舌腫瘍手術	3件
4. その他	1件
d) 喉頭・気管・下咽頭・食道領域	27件
1. 気管切開術	4件
2. 内視鏡下手術	
i) 声帯ホリフ・結節切除術	18件
ii) 喉頭腫瘍	4件
3. 喉頭腫瘍切除・全摘術	1件
e) 顔面・頸部領域	33件
1. 唾石（含顎下腺）摘出術	7件
2. 唾液腺腫瘍	14件
3. 頸瘻・頸嚢摘出術	3件
4. 甲状腺手術	1件
5. その他	8件

【主催学会】

鹿児島集談会は休会中

【講義】

久木田学園看護専門学校

【平成21年度頭頸部悪性腫瘍症例】

a) 鼻副鼻腔	1例
b) 下咽頭	1例
c) 喉頭	2例
d) 唾液腺	2例
e) 口腔内	1例

皮膚科

皮膚科部長 児浦純生

本年から、二人常勤務医師で診療することになった。猿渡 浩、児浦純生の両医師が担当した。

【診療内容・特徴】

診療内容・特徴は昨年の昭和会誌に述べた通りである。外来、入院患者数、紹介患者数の最近3年間の動態を表示した。平成21年度は、生検数も含めて手術数が増えたことと入院患者数が増えたことに言及しておきます。

(平成21年4月から平成22年3月迄 手術件数162例)。

【スタッフ紹介】

児浦純生 (部長)

〈資格・他〉

鹿児島大学医学部 臨床教授

皮膚科専門認定医

医学博士

医師免許

鹿児島大学医学部皮膚科学教室同門会長

経歴については昨年度の昭和会誌に記載しているので省略する。

猿渡 浩

〈資格〉

皮膚科専門認定医

医学博士

医師免許

〈経歴 職歴など〉

高山春陽会中央病院 (1年間)

都城藤元病院 (1年間)

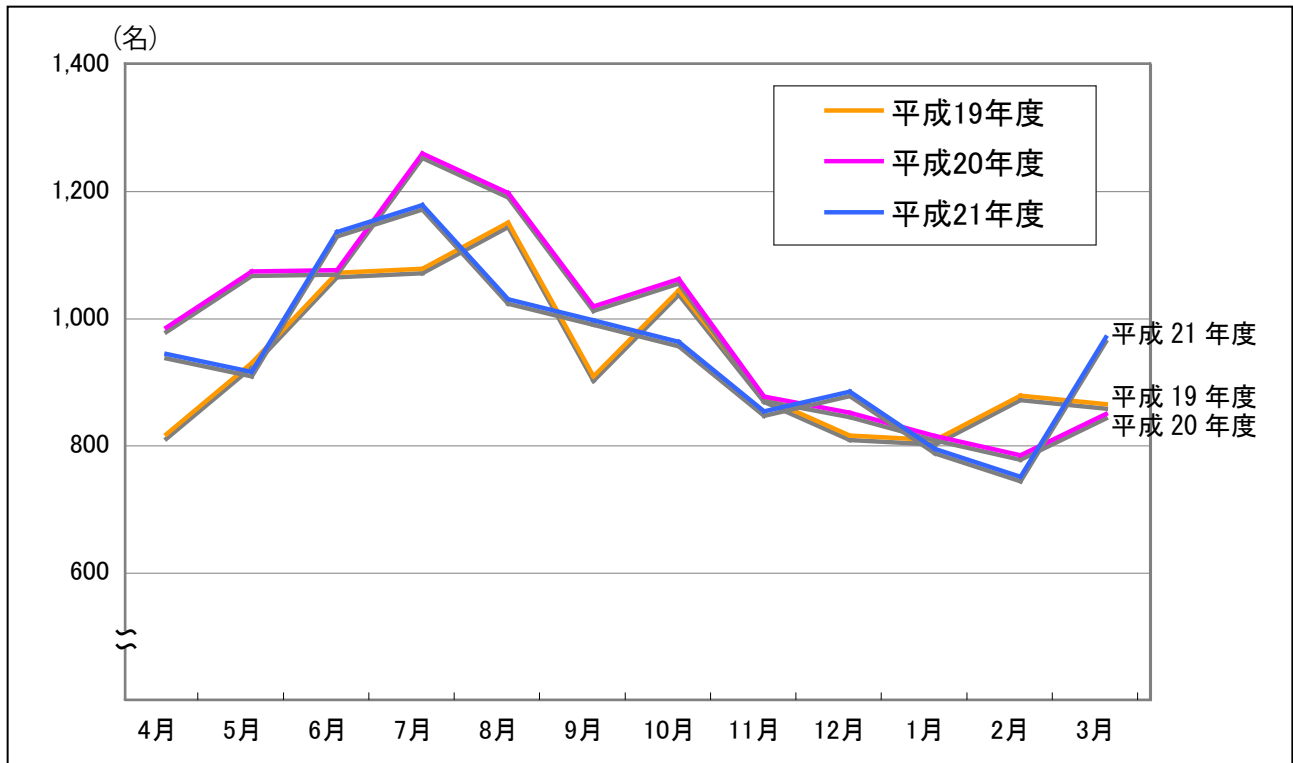
その間、鹿児島大学 医局員

久木田看護専門学校 講師 (1年間)

【外来入院患者数の最近3年間の動態】

	平成19年度			平成20年度			平成21年度		
	外来			外来	新入院	延入院	外来	新入院	延入院
4月	815			983	6	45	941	3	26
5月	927			1,071	4	55	913	4	40
6月	1,069			1,073	3	42	1,133	6	66
7月	1,075			1,256	8	47	1,175	8	119
8月	1,148			1,194	5	47	1,027	9	101
9月	906			1,016	7	88	994	9	158
10月	1,041			1,059	5	45	960	8	147
11月	873			874	2	20	851	5	56
12月	813			849	4	40	882	7	174
1月	806			812	4	34	792	7	71
2月	876			782	9	65	748	6	57
3月	862			847	5	56	967	5	54
計	11,211			11,816	62	584	11,383	77	1,069
外来	初診	2,862		2,949			3,044		
	再診	8,349		8,867			8,339		
紹介患者数	186		166			200			

【外来患者数動態グラフ（3年間）】



麻 醉 科

麻醉科部長 池田 耕自

当院における麻醉科の診療内容は手術麻醉、集中治療室等における重症患者管理である。今年度における麻醉科の陣容は、4～5人の麻醉科常勤医と他科からの研修医1人、非常勤医1人の6～7人であった。さらに卒後研修医4人の研修を行った。

平成21年度の今給黎総合病院麻醉科管理症例数は2332件であった。この内、緊急手術は254件（時間外146件）であり全体の10.9%程度を占める。手術室は6室有り、最大で7件の同時並行手術が可能である。

各科別の手術件数は、整形外科793件（34%）、耳鼻咽喉科210件（9%）、外科243件（10%）、泌尿器科249件（11%）、産科婦人科204件（9%）、形成外科235件（10%）、呼吸器外科155件（7%）、歯科口腔外科137件（6%）脳神経外科25件（1%）、眼科80件（3%）、といった現状であった。

麻醉症例内訳	
総症例数（緊急）	2332（254）
全身麻醉	1,383
全麻＋硬麻等	348
脊麻・硬麻等	558
伝達麻醉	6
その他	37

【各科別麻醉依頼件数（緊急）】

整形外科	793（84）
耳鼻咽喉科	210（3）
外科	243（73）
泌尿器科	249（8）
産科婦人科	204（61）
形成外科	235（18）
呼吸器外科	155（2）
歯科口腔外科	137（1）
眼科	80（0）
脳神経外科	25（3）
その他	1（1）

【ICU】

平成21年度のICU入室件数は581件である。各科の内訳は以下の通りである

【各科別麻醉依頼件数（緊急）】

科名	入室者数
外科	121
呼吸器外科	106
泌尿器科	77
脳神経外科	35
整形外科	76
呼吸器内科	21
神経内科	28
麻醉科	15
循環器内科	15
産婦人科	13
総合内科	3
形成外科	11
血液内科	3
合計	524

麻醉科管理患者は15名で内訳は急性薬物中毒1名、マムシ咬傷1名、重症外傷1名、重症急性膵炎5名、心肺蘇生後4名、敗血症ショック1名、急性呼吸不全1名であった。

【麻醉科医名】

池田 耕自
 西山 淳（平成17年10月～）
 川前 博和（平成21年4月～）
 岡山 奈穂子（平成18年7月～平成21年9月）
 村山 裕美（平成21年4月～）
 今給黎 南香（平成21年11月～）

 篠原 直弘（平成21年4月～9月）
 浦田 正和（平成21年7月～平成21年12月）

 松浦 茜（平成21年2月～平成21年5月）
 上山 友子（平成21年6月～平成21年7月）
 田島 誠一郎（平成21年10月～平成21年11月）
 福田 宏正（平成21年12月～平成22年3月）

放射線診断科・放射線治療科

放射線診断科部長 井手上 淳一

放射線治療科部長 中禮 久彦

当院ではCT（64列 1機、6列 2機）・MRI（1.5T 1機、1.0T 1機）・RI・DSA・透視 2機・乳房X線装置・マンモトーム機などを備えています。平成22年度には透視装置の更新予定で常に最新の機器を使用しており、PACS・フィルムレス運用にて最良な画像を効率的に画像診断を行っております。また、これらの医療機器を広く公開利用し、地域医療へ貢献しています。

IVR（治療）として肝癌や腎癌への動注塞栓術をはじめ、膀胱腫瘍や頭頸部癌への動注療法や救急疾患の中で外傷等による臓器損傷・膝炎や喀血などに対して血管内治療を積極的に取り組んでいます。

放射線治療は年々増加しており、昨年度は当院にてリニアック新患者が初めて300名を越えました。根治性を高めつつ、有害反応を低減するためのノンコプラナ多門照射や肺癌に対する定位集光照射（SRT）も開始となっております。加えて当院泌尿器科に協力して前立腺癌に対する小線源放射線治療（前立腺シード治療）も行っております。

当院では診療の質向上のために整形・呼吸器・消化器・循環器・脳神経系カンファレンスなどが日常診療の合間に行われており、画像診断と治療の質の向上に努めております。

今年度は昨年と同じく4人の常勤（大久保 幸一昭和会クリニック院長・中禮 久彦・井手上 淳一・米山 知秀（今年度9月より立山 暁大と交代となりました。）と鹿児島大学より2人の非常勤で日常診療を精力的に行っています。

【検査件数】

	件数
1. 一般撮影	46,394
2. 透視・造影撮影	1,538
3. 骨塩定量測定	424
4. X線CT	13,352
5. DSA/Angio	135
6. RI	824
7. MRI	5,848
8. 放射線治療	5,444
9. 前立腺シード	58

【入院診療患者】

【主病名別患者数】

食道癌	14
胃癌	2
S状結腸癌	1
直腸癌	5
肝癌	8
喉頭癌	1
肺癌	27
悪性胸腺腫	1
乳癌	2
前立腺癌	1
膀胱癌	1
頸部リンパ節転移	1
肝門部十二指腸間膜リンパ節転移	1
多発リンパ節転移	1
転移性肺腫瘍	2
転移性脳腫瘍	6
転移性骨腫瘍	12
副腎転移	1
びまん性大細胞性B型細胞型リンパ腫	3
胃MALTリンパ腫	1
転移性骨腫瘍	1
マントル細胞リンパ腫	1
T細胞型大細胞リンパ腫	2
縦隔悪性リンパ腫	1
多発性骨髄腫	2
血管腫	1
高血圧症	1
肺血管の動静脈瘻	1
脳内出血	1
総肝動脈瘤	1
突発性腎出血	1
腰椎圧迫骨折（原因不明）	1
右大腿骨大腿骨頸部外側骨折骨折後出血	1
合計	106

【悪性新生物原発巣別患者数】

肺癌	39
食道癌	15
肝細胞癌	11
直腸癌	6
乳癌	4
びまん性大細胞性B細胞型リンパ腫	3
胃癌	2
S状結腸癌	2
縦隔悪性リンパ腫	2
腭頭部癌	1
喉頭癌	1
悪性胸腺腫	1
大腿悪性線維性組織球腫	1
前立腺癌	1
膀胱癌	1
甲状腺癌	1
胃MALTリンパ腫	1
マントル細胞リンパ腫	1
T細胞型未分化型大細胞リンパ腫	1
多発性骨髄腫	1
原発不明癌	1
合計	96

【学会活動】

【学会発表】

当院で経験した隆起性皮膚線維肉腫4例のMRI検査所見の検討

第168回日本医学放射線学会九州地方会 佐賀
2009年2月14日
立山 暁大ほか

【論文・著書】

急性腹症で発症した消化管（回腸）重複症の1例
鹿児島市医報 第48巻 第5号 平成21年5月
立山 暁大ほか

救急科(連携診療科)

救急科部長 松添大助

平成 21 年度の救急車搬送件数は 2113 件でした。

内訳は、おおよそのところで急病 4 割、紹介搬送 3 割、外傷 2 割、交通事故 1 割といったところです。診療科別にみると、整形外科が約 1/4 を占めています。また、連診・当直が 4 割近くありますが、これは昼間であれば連携診療科、時間外であれば当直医において一応の検査や処置が完了し専門医の診察が不要であった患者さんです。全てにあてはまるわけではありませんが、緊急性に乏しい症例とみることもできるかもしれません。

時間帯別、地区別では、例年と変わりはないようでした。

【救急搬送患者内訳】

	救急車台数	内 訳 (%)				
		外 傷	急 病	交通事故	紹 介	他
4月	183	34 (18.6)	70 (38.3)	24 (13.1)	53 (29.0)	2 (1.1)
5月	189	48 (25.4)	54 (28.6)	22 (11.6)	62 (32.8)	3 (1.6)
6月	165	40 (24.2)	49 (29.7)	25 (15.2)	48 (29.1)	3 (1.8)
7月	174	40 (23.0)	42 (24.1)	27 (15.5)	65 (37.4)	0
8月	184	32 (17.4)	78 (42.4)	24 (13.0)	50 (27.2)	0
9月	192	33 (17.2)	80 (41.7)	37 (19.3)	42 (21.9)	0
10月	174	27 (15.5)	73 (42.0)	32 (18.4)	40 (23.0)	2 (1.1)
11月	161	37 (23.0)	70 (43.5)	16 (9.9)	38 (23.6)	0
12月	204	33 (16.2)	72 (35.3)	30 (14.7)	68 (33.3)	1 (0.5)
1月	190	32 (16.8)	76 (40.0)	20 (10.5)	62 (32.6)	0
2月	134	24 (17.9)	52 (38.8)	10 (7.5)	48 (35.8)	0
3月	163	31 (19.0)	61 (37.4)	25 (15.3)	43 (26.4)	3 (1.8)
合計	2113	411 (19.5)	777 (36.8)	292 (13.8)	619 (29.3)	14 (0.7)

【地区別集計】

地 区	救急車台数 (%)
上町・吉野	774 (36.6)
伊敷・草牟田	312 (14.8)
中央	241 (11.4)
中央駅・田上	80 (3.8)
鴨池・郡元	87 (4.1)
谷山	58 (2.4)
桜島	39 (1.8)
吉田	87 (4.1)
松元	4 (0.2)
郡山	54 (2.6)
市外	377 (17.8)
計	2113

【時間帯別集計】

勤 務 帯	救急車台数 (%)
日勤 (8:00-17:00)	1,135 (53.7)
準夜 (17:00-23:00)	538 (25.5)
深夜 (23:00-翌8:00)	440 (20.8)

【診療科別内訳】

(%)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	科別合計
総内	2 (1.1)	3 (1.6)	2 (1.2)	3 (1.7)	6 (3.3)	12 (6.3)	1 (0.6)	0	5 (2.5)	4 (2.1)	2 (1.5)	3 (1.8)	43 (2.0)
神内	12 (6.6)	8 (4.2)	8 (4.8)	14 (8.0)	17 (9.2)	15 (7.8)	11 (6.3)	13 (8.1)	19 (9.3)	18 (9.5)	9 (6.7)	14 (8.6)	158 (7.5)
循内	3 (1.6)	3 (1.6)	1 (0.6)	2 (1.1)	1 (0.5)	2 (1.0)	5 (2.9)	3 (1.9)	1 (0.5)	2 (1.1)	1 (0.7)	1 (0.6)	25 (1.2)
呼内	9 (4.9)	7 (3.7)	5 (3.0)	6 (3.4)	12 (6.5)	6 (3.1)	7 (4.0)	3 (1.9)	6 (2.9)	13 (6.8)	6 (4.5)	7 (4.3)	87 (4.1)
消内	6 (3.3)	4 (2.1)	3 (1.8)	10 (5.7)	1 (0.5)	2 (1.0)	6 (3.4)	2 (1.2)	4 (2.0)	7 (3.7)	7 (5.2)	6 (3.7)	58 (2.7)
血内	1 (0.5)	2 (1.1)	1 (0.6)	2 (1.1)	0	0	2 (1.1)	0	2 (1.0)	0	1 (0.7)	2 (1.2)	13 (0.6)
DM	1 (0.5)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1 (0.6)	2 (0.1)
小児	1 (0.5)	0	0	1 (0.6)	1 (0.5)	2 (1.0)	0	0	0	0	0	0	5 (0.2)
放科	0	0	0	1 (0.6)	0	0	1 (0.6)	0	0	0	2 (1.5)	0	4 (0.2)
NICU	8 (4.4)	6 (3.2)	13 (7.9)	8 (4.6)	5 (2.7)	5 (2.6)	4 (2.3)	6 (3.7)	9 (4.4)	6 (3.2)	4 (3.0)	10 (6.1)	84 (4.0)
外科	4 (2.2)	7 (3.7)	3 (1.8)	8 (4.6)	7 (3.8)	6 (3.1)	3 (1.7)	4 (2.5)	2 (1.0)	5 (2.6)	2 (1.5)	2 (1.2)	53 (2.5)
呼外	3 (1.6)	0	4 (2.4)	1 (0.6)	3 (1.6)	7 (3.6)	5 (2.9)	2 (1.2)	0	3 (1.6)	1 (0.7)	1 (0.6)	30 (1.4)
整外	43 (23.5)	57 (30.2)	47 (28.5)	59 (33.9)	40 (21.7)	29 (15.1)	26 (14.9)	31 (19.3)	53 (26.0)	38 (20.0)	29 (21.6)	38 (23.3)	490 (23.2)
形外	2 (1.1)	10 (5.3)	8 (4.8)	3 (1.7)	3 (1.6)	6 (3.1)	4 (2.3)	3 (1.9)	7 (3.4)	12 (6.3)	2 (1.5)	2 (1.2)	62 (2.9)
脳外	5 (2.7)	2 (1.1)	4 (2.4)	0	2 (1.1)	4 (2.1)	6 (3.4)	4 (2.5)	2 (1.0)	3 (1.6)	5 (3.7)	2 (1.2)	39 (1.8)
産婦	4 (2.2)	9 (4.8)	3 (1.8)	3 (1.7)	5 (2.7)	6 (3.1)	7 (4.0)	3 (1.9)	5 (2.5)	5 (2.6)	3 (2.2)	4 (2.5)	57 (2.7)
泌尿	3 (1.6)	4 (2.1)	4 (2.4)	3 (1.7)	6 (3.3)	6 (3.1)	1 (0.6)	3 (1.9)	4 (2.0)	3 (1.6)	3 (2.2)	4 (2.5)	44 (2.1)
耳鼻	1 (0.5)	1 (0.5)	0	0	0	0	0	0	1 (0.5)	1 (0.5)	1 (0.7)	3 (1.8)	8 (0.4)
眼科	0	1 (0.5)	1 (0.6)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2 (0.1)
皮膚	0	1 (0.5)	0	0	0	1 (0.5)	0	0	0	0	0	0	2 (0.1)
歯科	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1 (0.6)	1 (0.05)
麻酔	3 (1.6)	0	0	0	3 (1.6)	1 (0.5)	0	0	1 (0.5)	0	0	0	8 (0.4)
連診・当直	72 (39.3)	64 (33.9)	58 (35.2)	50 (28.7)	72 (39.1)	82 (42.7)	85 (48.9)	84 (52.2)	83 (40.7)	70 (36.8)	56 (41.8)	62 (38.0)	838 (39.7)
計	183	189	165	174	184	192	174	161	204	190	134	163	2113

病理診断科

病理診断科部長 田代幸恵

平成 21 年度は、9 年間勤務して頂いた細胞検査士の高橋さんが退職され、新しい二人のスタッフを迎え、受付業務をはじめ免疫染色や in situ hybridization 等の手技の引き継ぎや、診断システムや受付システムの改善に取り組んできました。

また、平成 21 年 10 月には新村さんに産業医科大学へ PCR の研修に行ってもらい、鹿児島の病院病理として初めて軟部腫瘍の遺伝子診断を取り入れる準備が整いました。平成 22 年度から本格的に始動し、当院のみならず、南九州の軟部腫瘍の診断に貢献できるようスタッフ一同頑張っています。

【病理部スタッフ】

医師		技師	
白濱 浩	鹿児島大学医学部臨床教授 日本病理学会病理専門医 日本臨床細胞学会細胞診専門医 臨床検査管理医	徳永 敬之	(臨床病理技術士)
		肥後 真	(臨床検査技師、国際細胞検査士)
		新村 泰子	(臨床検査技師)
		田邊 尚子	(臨床検査技師、細胞検査士)
		岩崎 明日香	(臨床検査技師)
田代 幸恵	鹿児島大学医学部臨床教授 日本病理学会病理専門医 日本臨床細胞学会細胞診専門医		
佐藤 栄一	鹿児島大学医学部名誉教授 日本病理学会病理専門医		

組織診および細胞診検体数

	H17年度	H18年度	H19年度	H20年度	H21年度
組織件数	3,791	4,110	3,791	4,736	3,232
細胞診件数	3,300	3,174	3,315	3,011	2,855

剖検例

剖検番号	年齢・性	出 所	主要剖検診断
QA-2009-1	67M	呼吸器内科	肺出血、肺炎

- ・術中迅速診断：274件（内、院外からの依頼：48件）
（H17年度:229件, H18年度:306件, H19年度:319件, H20年度:292件）
- ・院外からの血液疾患関連Marker検索および診断依頼：21件
（H17年度:30件, H18年度:33件, H19年度:30件, H20年度:22件,）
- ・院外からの免疫染色依頼（パラフィン切片による）：1086件
（H17年度:701件, H18年度:781件, H 19年度:924件, H20年度:1007）
- ・院外からの血液疾患関連Marker検索およびコンサルト依頼：30件

C. P. C

H21. 4. 8 QA2008-1（主治医:島, 病理:白濱）

H21. 12. 20 QA2008-4（主治医:松下, 病理:田代）

細胞診診断統計 (2009. 04. 01～2010. 03. 31)

	IIIa IIIb						合計
	Class I	Class II	Class III	Class IV	Class V	Not diagnostic	
膣頸部	1080	141	41 1	11 10	19	4	1307
内膜	133	16	0 3	0	10	0	162
呼吸器	406	48	0 25	0 14	113	1	607
体腔液	98	49	0 12	0 9	62	0	230
尿	188	105	0 17	0 12	35	0	357
その他	76	49	0 17	0 4	29	17	192
合計	1981	408	41 75	11 49	268	22	2855

組織診断統計 (2009. 04. 01～2010. 03. 31)

	生検		内視鏡切除		切除		合計
	悪性		悪性		悪性		
心血管	0	0	0	0	1	0	1
血液・骨髄・脾 リンパ節	17	2	15	5	3	0	35
鼻・咽頭・喉頭	28	13	22	17	207	60	257
肺	29	5	14	0	9	0	52
胸膜・縦隔・腹膜	165	56	4	0	102	72	271
口腔・唾液腺	20	8	2	0	40	12	62
食道	13	3	2	0	67	2	82
胃・十二指腸	55	13	0	0	4	4	59
小腸	380	37	6	2	26	17	412
大腸・肛門	12	1	0	0	26	4	38
肝胆膵	204	33	193	15	85	33	482
腎尿路男性	5	2	1	0	51	13	57
女性器	155	105	83	46	133	67	371
乳線	57	18	26	3	231	51	314
内分泌	3	3	2	1	8	6	13
中枢末梢神経	4	0	2	0	13	5	19
耳・眼	0	0	1	0	8	4	9
皮膚	2	1	0	0	11	0	13
骨・関節	182	37	1	0	895	93	1078
軟部	21	0	1	0	12	3	34
その他	9	5	1	0	102	6	112
合計	2	1	53	1	8	2	63
合計	1363	343	429	90	2042	454	3834

【学会活動】

肺及びリンパ節病変

第113回鹿児島病理集団会 2009年10月20日

田代幸恵（今給黎総合病院 病理）

【論文】

An atypical extrahepatic metastasis of the distal phalanx from hepatocellular carcinoma.

Int J Clin Oncol. 2009 Apr;14(2):159-62.

Epub 2009 Apr 24.

Otsuji M, Matsunaga S, Koga H, Kawabata N, Imakiire T, Hiwaki T, Tashiro Y, Shirahama H, Komiya S.

Continued complete remission without systemic therapy for isolated testicular relapse after bone marrow transplantation in a boy with acute lymphoblastic leukemia.

Pediatr Transplant. 2009 Sep;13(6):769-

72. Epub 2009 Nov 26.

Kodama Y, Okamoto Y, Ijichi O, Shinkoda Y, Nishikawa T, Tanabe T, Yoshioka T, Tashiro Y, Mougi H, Kawano Y.

在宅診療科

在宅診療科部長 林 茂 昭

【診療科紹介】

平成22年3月現在、在宅診療科は常勤医2名体制となっております。通院が困難で自宅療養されておられる方を対象に訪問診察を行っております。訪問診察には常勤医2名が中心となり、他科の先生方にも訪問診察の協力を頂き、理学・作業療法士及び在宅医療部の保健師・看護師と連携を図りながら診療を行っております。基本的に一人の方に対して、2回/月の訪問診察を行っております。

【スタッフ紹介】

常勤医

林 茂昭 日本内科学会認定内科医、日本内科学会総合内科専門医、日本神経学会専門医
甲斐 太 日本内科学会認定内科医、日本神経学会専門医

訪問診察医師

甲斐、林、荒田(神経内科)、生野(総合内科)、二木(総合内科)、松添(連携診療科)、
今給黎(尚)(整形外科)

協力医

鎌田(歯科)、吉田(歯科)、須田(眼科)、徳永(産婦人科)

【診療状況】

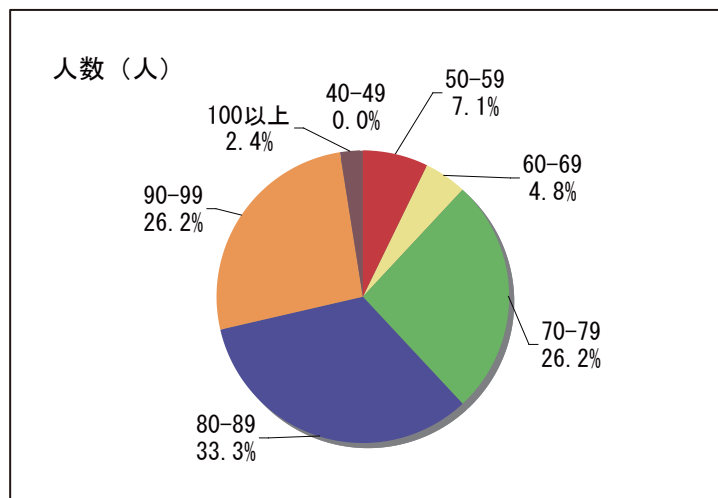
平成22年4月1日現在では当院在宅診療部の訪問看護を受けている33名の方のうち、24名の患者様の訪問診察を行っております。

全身状態が悪化した場合は、在宅で経過を見る場合もあれば、入院での治療も行っており、自宅療養が再度できるように対応しております。

年間訪問看護患者総数 42名 (男性 17名 女性 25名)

【患者年齢】

年代	人数(人)
40-49	0
50-59	3
60-69	2
70-79	11
80-89	14
90-99	11
100以上	1
合計	42



【主疾患名】

疾患	(人)	疾患	(人)
神経系疾患	17	呼吸器疾患	3
新生物	12	消化器系	1
循環器疾患	9	内分泌系・代謝疾患	1
損傷・中毒、外因の影響	5	合計	52
筋・骨格系、結合組織	4		

【平成 21 年度 月別訪問件数】

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計 (件)
訪問診察	46	50	43	56	52	51	46	55	65	51	56	73	644
訪問リハビリ	11	13	16	13	13	11	12	12	13	11	11	13	149
訪問看護	79	66	77	102	106	102	97	109	133	94	113	136	1,214
合計 (件)	136	129	136	171	171	164	155	176	211	156	180	222	2,007

歯科口腔外科

歯科口腔外科部長 吉田 雅 司

【診療内容】

歯科口腔外科外来では、歯科医師3名、歯科衛生士1名、歯科技工士1名、および受付1名の常勤スタッフと6名の非常勤歯科医師で、当院の入院患者やスタッフ、さらにご紹介いただいた患者様を主に診療しています。診療内容は、う歯、根管治療、義歯やブリッジなどの補綴治療などの一般歯科治療、また、埋伏智歯抜歯を中心とした抜歯、歯の破折や歯槽骨骨折などの外傷治療、歯根のう胞や粘液のう胞などの摘出術、顎関節症、歯科インプラント治療などが中心です。

さらに、次のような専門外来を行っており、患者様の多様なニーズにお答えしております。

- ・歯周病科外来 主に口腔ケアを行います。
- ・補綴科外来 腫瘍切除後の顎補綴や顎関節症における咬合チェックなどを行います。
- ・口腔ペインクリニック 顎顔面領域の神経痛や麻痺、痺れといった神経症状の治療を行います。
- ・漢方歯科外来 口腔粘膜疾患の診断・治療を行います。
- ・お口のカウンセリング外来 様々なストレスに起因する口腔疾患における患者様のお話をお聞きして、適切なアドバイスを行います。
- ・スポーツ歯科外来 スポーツ選手に対してマウスガードの作成や咬み合わせのチェックを行います。

一方、入院では、顎矯正術を中心に、有病者の抜歯や歯科治療、およびさまざまな口腔外科的疾患の手術や治療に対応しております。最近の傾向としては、小下顎による睡眠時無呼吸症候群患者の下顎骨形成術が増加しています。

本院は、他科との連携が非常にスムーズで、有病者の患者様はもちろんのこと、常に安心できる歯科医療を提供できる環境が整っております。また、本年度から院内に口腔ケアチームを立ち上げ、総合的に入院患者や外科手術前患者の口腔清掃に努め、嚥下性肺炎の防止、外科手術後の創感染可能性の減少に努める予定です。当院は、看護師やその他のスタッフの方々の献身的な支えがあって、充実した診療が行えていると思います。

さらに努力し、今給黎総合病院・昭和会クリニックから情報発信が出来るよう、頑張っていきたいと思っております。

【スタッフ紹介】

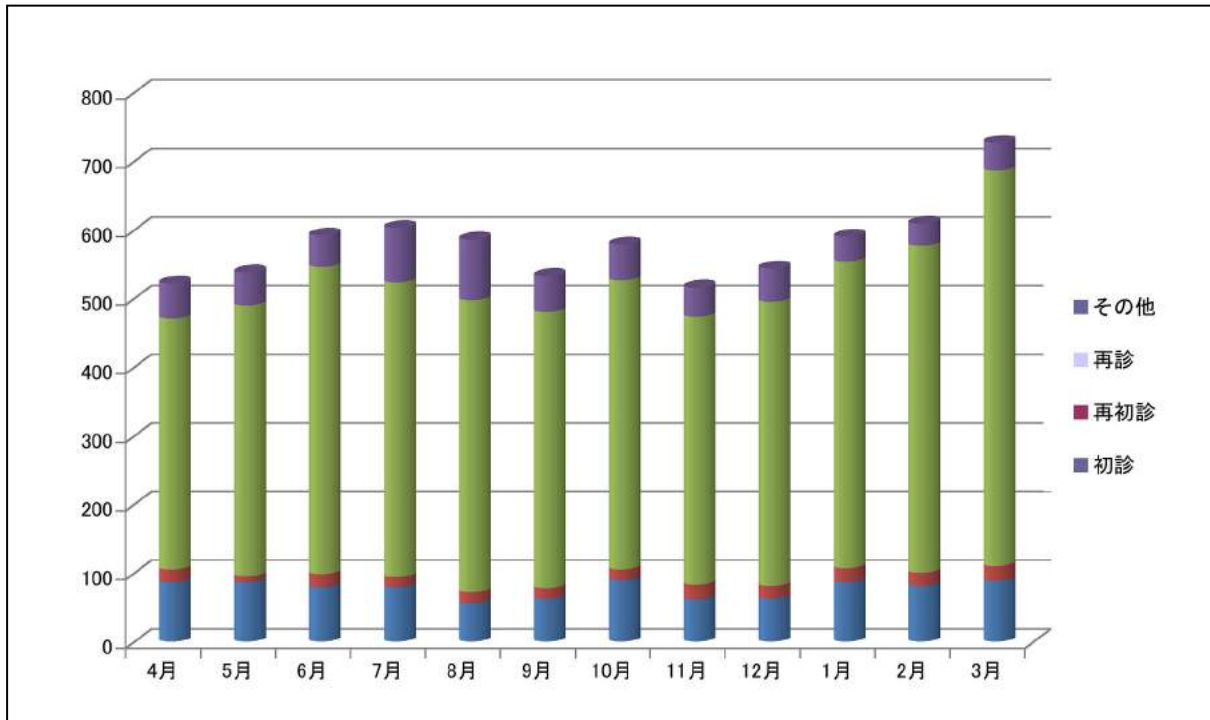
吉田雅司(歯科医師) 今給黎総合病院常勤、専門分野：歯科口腔外科
鎌田ユミ子(歯科医師)昭和会クリニック常勤、専門分野：一般補綴、一般歯科
中村令奈(歯科医師)昭和会クリニック非常勤、専門分野：一般歯科
塘亜佳音(歯科技工士)
西山麻美(歯科衛生士)
豊福好江(歯科衛生士)

【平成21年度 統計】

- ・ 外来患者数 6,939人（新患915人）

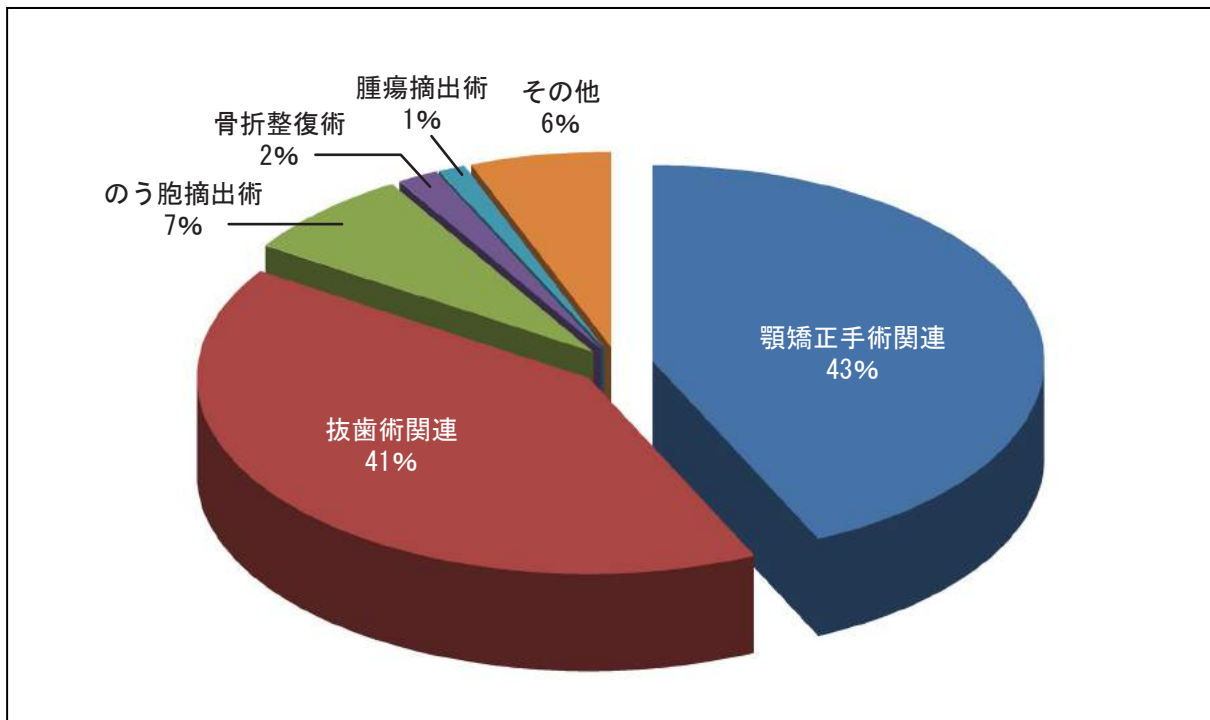
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
初診	86	86	79	79	56	62	89	61	62	86	81	88	915
再初診	19	9	19	15	16	16	16	22	19	21	19	22	213
再診	366	395	448	429	425	402	421	390	414	447	477	576	5,190
その他	51	48	46	80	89	53	53	43	49	36	32	41	621
計	522	538	592	603	586	533	579	516	544	590	609	727	6,939

【平成 21 年度月別外来患者数】



・入院患者数 149名

【平成 21 年度手術症例】



【2009 年度業績】

【論文】

智歯周囲炎を契機に発症した非定型顎顔面痛の漢方治療例

痛みと漢方 20: P72-76 2009

山口孝二郎、松井竜太郎、吉田雅司、向井 洋、杉原一正

【学会発表】

シンポジウム I

「成長期の重度骨格性不正咬合への対応」

手術の診断に関与する顎発育の制御と臨界期

第 19 回日本顎変形症学会総会 仙台

2009年6月4～5日

今給黎総合病院 歯科口腔外科 吉田雅司

矯正歯科くろえクリニック 黒江和斗

抜歯直後の血液内に細菌は混入しているか？—埋伏智歯—

第16回鹿児島自己血輸血療法研究会 鹿児島

2009年7月11日

吉田雅司（歯科口腔外科）有馬百合子 田川

愛子（看護部）村中利也（検査部）

鹿児島自己血輸血療法研究会の取り組み—受験対策から自己血輸血看護師の誕生まで—

第16回鹿児島自己血輸血療法研究会 鹿児島

2009年7月11日

医療法人明正会 今林整形外科病院 看護部

北 和代

整形外科米盛病院 看護部 友清尚子

今給黎総合病院 歯科口腔外科 吉田雅司

スポーツ飲料飲水の舌温への影響

第 20 回日本スポーツ歯科医学会総会・学術大会大宮ソニックシティ 埼玉

2009年7月4日～5日

今給黎総合病院 歯科口腔外科 吉田雅司

鹿児島大学病院歯科総合診療部 スポーツ歯科外来 吉田礼子

小児の根未完成智歯抜歯にともなうバイタルサインの検討

第 20 回 西日本臨床小児口腔外科学会

熊本県歯科医師会館 2009年 7月26日

吉田雅司

ミャンマーにおける口唇口蓋裂—ミャンマー医療援助隊の活動報告—

第 77 回日本口腔外科学会九州地方会 福岡

2009年9月19日

今給黎総合病院歯科口腔外科 吉田雅司

鹿児島大学病院口腔外科 川島清美

愛知学院大学歯学部口腔外科（Ⅱ） 夏目長門

九州大学名誉教授 田代英雄

福岡歯科大学口腔顎顔面外科学講座 大関 悟

オープンシステムによる全身麻酔下集中歯科治療症例報告とシステムに関する一考察

第26回日本障害者歯科学会総会および学術大会 名古屋 2009年10月30～11月1日

もりぬし小児歯科医院 森主宜延、森主真弓

金城歯科小児歯科医院 金城幸子

今給黎総合病院 歯科口腔外科 吉田雅司

睡眠時無呼吸症候群に対して外科的矯正術を行った1例

第 54 回日本口腔外科学会総会 札幌

2009年10月17・18日

今給黎総合病院歯科口腔外科 吉田雅司

矯正歯科くろえクリニック 黒江和斗

湯田歯科医院 湯田晃大

Surgery Firstにて治療した外科的矯正術の一例

第 4 回熊本顎変形症研究会 熊本

2009年11月8日

今給黎総合病院歯科口腔外科 吉田雅司

湯田歯科医院 湯田晃大

矯正歯科くろえクリニック 黒江和斗

埋伏智歯抜歯直後の血液内に細菌は混入しているか？

第 23 回日本自己血輸血学会学術総会 倉敷市

2010年2月26日・27日

吉田雅司（歯科口腔外科・スポーツ歯科）

有馬百合子（看護部）村中利也（中央検査部）

東京大学医学部附属病院輸血部 高橋孝喜

【テレビ出演・その他執筆】

口唇口蓋裂ミャンマーで医療援助

2010年2月17日 南日本放送 MBCニューズナウ

ミャンマー口唇口蓋裂診療隊参加

2010年2月22日 南日本新聞へ寄稿

（次頁に寄稿記事）

【研究会開催状況】

第 16 回鹿児島自己血輸血療法研究会

2009年7月11日今給黎総合病院講義室

第 5 回鹿児島スポーツ医学歯学勉強会

2010年2月20日今給黎総合病院講義室

【院外活動（ボランティアなど）】

2009年度ミャンマー医療隊

2009年12月13～20日

ネピドー市（ミャンマー連邦）

吉田雅司 参加

【ミャンマー口唇口蓋裂診療隊参加】

4日間で51人手術 医療技術支援に喜び

生まれながらに唇や上あごが開いている口唇口蓋裂は、早期に治療すれば経過良好である場合がほとんどだ。だが、世界各国には治療を受けることなく放置され、発声障害や審美的問題に苦しむ患者が多く存在する。15年前から1年に1回、ミャンマーへの医療援助隊に参加する今給黎総合病院歯科口腔外科部長の吉田雅司さん（55）に、活動内容や現地の様子を寄稿してもらった。

1995年、日本口唇口蓋裂協会の医療援助隊として、初めてミャンマーを訪れた。主な目的は口腔外科医の教育など技術移転。当時、現地では限られた形成外科医だけが口唇口蓋裂手術を行っており、手術まで2年待ちという状況だった。今では診療隊が滞在期間中に手術できなかった患者は、現地の口腔外科医が立派に手術してくれるようになった。

水道などインフラの問題も深刻で、設備の整った手術室はなく、手術器具もそろっていなかった。日本では使い捨ての手術用ゴム手袋が再利用されていたり、手を洗う水も出し始めは茶色だった。「何とかしなくては」と98年、鹿児島に「ミャンマーに医療器具を送る会」を設立。毎回、市民や関係者の支援で現地が必要とする医療器具を寄贈している。

本年度はミャンマー政府からの依頼で、2006年にヤンゴンから遷都されたネピドーで活動した。昨年12月中旬、全国から6人が集まり、4日間で51人の手術にあたった。鹿児島からはほかに、鹿児島大学病院口腔外科の川島清美講師、今給黎総合病院の東美津子看護師長が参加した。医療援助隊に集まってきた患者たちは非常に貧しい世帯の人々だ。手術費用はボランティアのため不要だが、入院にかかる食費を浮かせるために手術後1～2日で退院していく。だが、自分たちの食べ物にも困っているはずなのに、お菓子を届けてくれるなど、言葉が通じないながらも、どうにか感謝の気持ちを伝えようとしてくれた。

ミャンマーの患者や医師に接するときに忘れてはならないのは、現地の人々の気持ちになって活動すること。医療技術を教えても、自分たちの価値観まで強制してはならないということだ。一般的に口唇裂形成術を行えば、次は口蓋裂形成術が必要となる。日本ではその後、顎裂部の閉鎖や歯列の矯正を行い、必要であれば発育不全に伴う上顎骨や下顎骨の形成術を行う。そういう意味では、診療隊の活動は、最低限の日常生活の向上しか与えられていないのかもしれない。

それでも現地の口腔外科医が立派に手術できるようになり、わたしたちから独立して貧しい人たちのボランティア手術を行っていることは喜ばしい。わたしたちを必要とする人がいる限り、この活動を継続していく覚悟だ。

今給黎総合病院 歯科口腔外科部長 吉田雅司